

HITACHI
Inspire the Next

今からでも間に合う！ JP1 V8.1 で実現する内部統制の整備と強化

株式会社 日立製作所
ソフトウェア事業部 JP1 販売推進センタ
鎌田 義弘

Contents

1. 内部統制は何のためにやるのか
 2. 業務プロセスに潜むさまざまなリスクとITを活用した統制ポイント
 3. JP1 V8.1 による内部統制支援
 4. 業務の自動化
 5. クライアントPCの統制
 6. 作業プロセスの統制とシステム変更管理
 7. システムの稼働監視
 8. 活動履歴の採取
 9. JP1による内部統制強化のススメ
- 付録 デモンストレーション

uVALUE

1

内部統制は何のためにやるのか



HITACHI
Inspire the Next

内部統制とは、

経営者・従業員の不正・ミスによるリスクをなくすための
仕組み、および組織的活動



統制 (コントロール)

- 規則/手順の存在
- 規則通り業務/活動が行われていることに関する組織的なチェック等の活動

事前対策により、
リスクを防ぐ

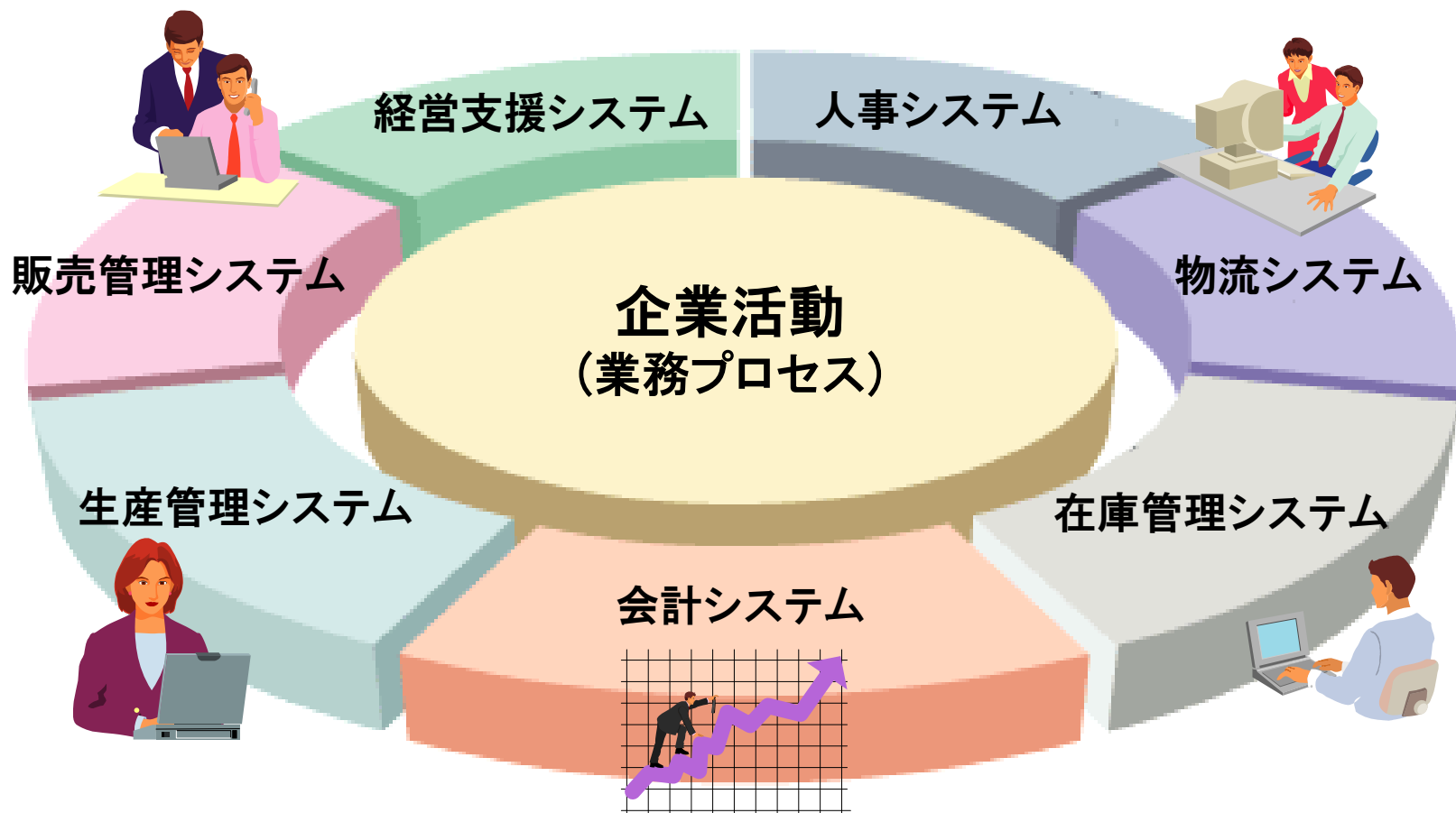
不正
・
ミス

- ◆ 財務諸表の改ざん/不当表示
→ 費目の付け替え、期末の押し込み
- ◆ オペレーションミス
- ◆ 犯罪(会社資産の個人使用)
- ◆ ミス/不正の隠匿

リスク

- ◆ 資本市場からの信頼喪失
→ 株価暴落、上場廃止
- ◆ 顧客からの信頼喪失
→ 不買運動による業績低下
- ◆ 行政処分

財務会計をはじめとする企業の業務プロセスの多くは、ITシステムによって処理されている。



全社的な内部統制

連結ベースの財務報告全体に影響を及ぼす内部統制

全社的な内部統制

全社的な統制

統制環境

リスクの評価と対応

統制活動

情報と伝達

モニタリング

ITへの対応

適切な統制が
全社的に機能
しているかどう
か心証を得る。

それに基づき、
虚偽記載につ
ながるリスク
に着眼して業
務プロセスに
かかる内部
統制を評価。

業務プロセスにかかわる内部統制

業務プロセスにかかわる内部統制

業務プロセスに組み込まれ一体となって遂行される内部統制

財務報告における記載内容の適正性

・組織構造及び慣行・権限および職責・人的資源に対する方針と管理

ITに係る統制

担保する

業務処理統制

入力情報の完全性、正確性、正当性等を確保する統制

例外処理(エラー)の修正と再処理

マスタ・データの維持管理

システムの利用に関する認証、操作範囲の限定などアクセスの管理

担保する

IT全般統制

ITの開発、保守に係る管理

システムの運用・管理

内外からのアクセス管理などシステムの安全性の確保

外部委託に関する契約の管理

「ITへの対応」を二つの側面から考える

ITによる統制

業務リスク削減のために
ITの機能を活用する

- 判断/処理のルール化
- 異常値の検知とアラーム
- 例外処理の禁止
- 証跡の取得
- 業務関連者の限定 等

ITを活用して、間違いや不正な処理が
起きない強固な業務の統制を実現する

業務リスクの把握

ITの統制

IT構築・運用の不備に起因する
リスク削減のために
ITの機能を活用する

- プロセス管理
- 権限管理
- アクセス制御
- データ保護

IT自身を信頼できるものにするために
セキュリティや運用の面から統制すること

ITリスクの把握

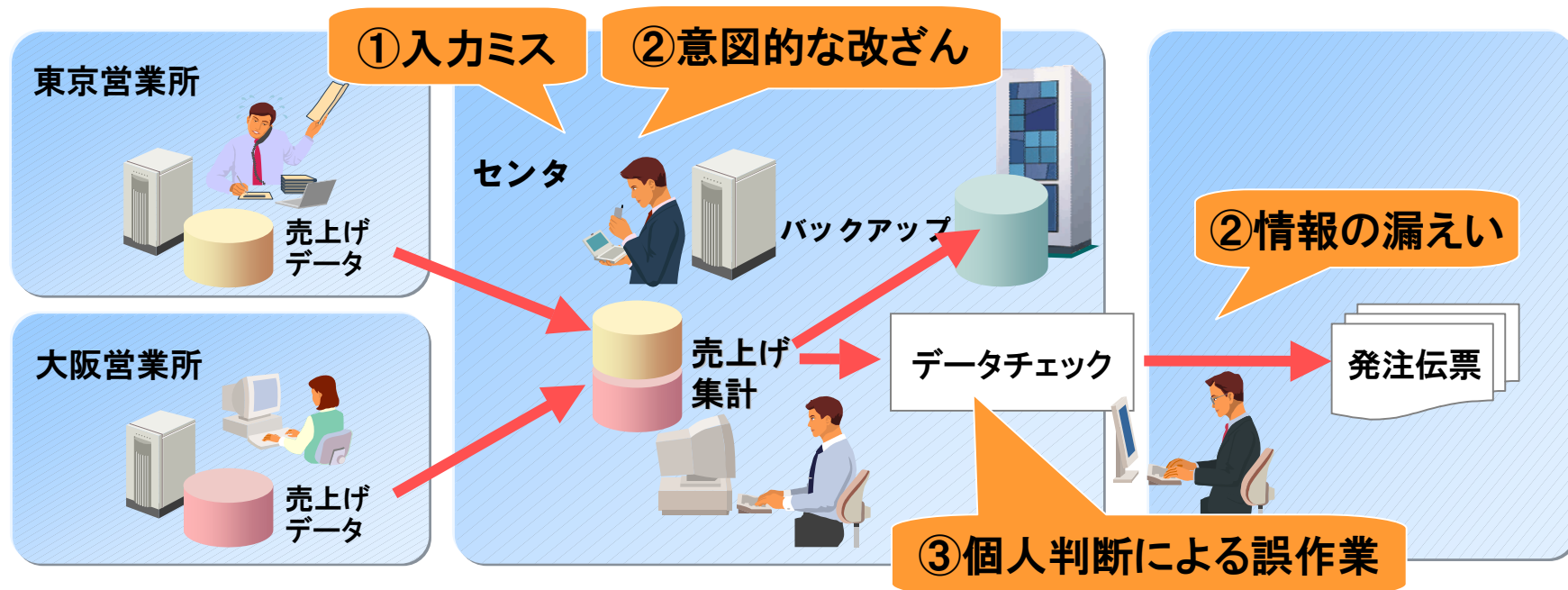
uVALUE

2

業務プロセスに潜むさまざまなリスクと
ITを活用した統制ポイント



HITACHI
Inspire the Next



■考えられるリスク

- ① データ入力ミスによる誤ったデータをチェックする手段が不十分
- ② 担当者に必要以上の権限を与えているため、データの改ざん・漏えいが発生しやすい環境になっている
- ③ 担当者の勝手な判断による誤作業 など

ITを使って整備すること

業務の自動化

業務を自動化することで
ミスや不正を排除する

安定したサービスの提供

ビジネス環境におけるセキュリティ脅威

社内

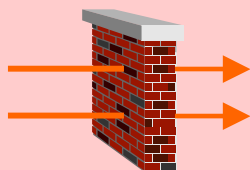
ウイルスによる
ファイル破壊

ウイルス

セキュリティ
対策漏れ

不正利用

不正接続

セキュリティパッチ
未適用

クライアントPC



つながせない！

見逃さない！

社外

社内情報の
持ち出しノートPCの盗難・紛失
による情報漏えい

情報漏えい

データ持ち出しや
メール誤送信による
情報漏えい

使わせない！

持ち出させない！

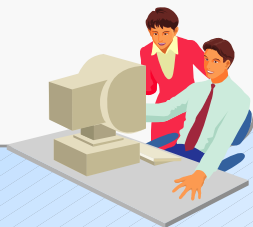
ITを使って整備すること

クライアントPCの統制

クライアントPCと媒体の統制

→ 安全なビジネス環境の維持

システム変更は口頭での
依頼で、現場が独自に実施



新計算方式の変更が反映されず、
誤った帳票を提出

データ入力、帳票チェックなど、
一人が複数の業務を兼務



データ改ざんや情報漏えい事件に発展

ITを使って整備すること

作業プロセスの統制とシステムの変更管理

システムの変更が正当な手続き・承認の下に
行われ、管理されていること

業務を分担し、互いにチェックしあうなど、
権限の分離が行われていること

確実な変更の実施

→ 不正な処理の回避

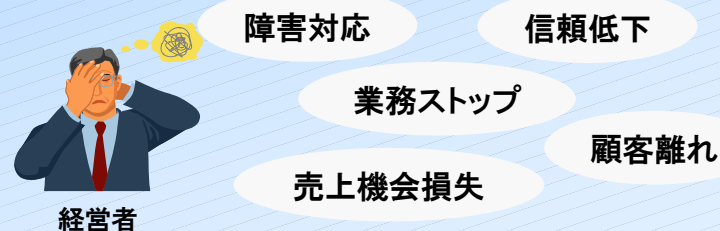
業務分担、権限の分離

→ ミスや不正行為が起こりにくい環境

問題は検知できていたが、
担当者不在でそのまま放置



後に、重大なシステム障害に
発展し、ビジネスに影響

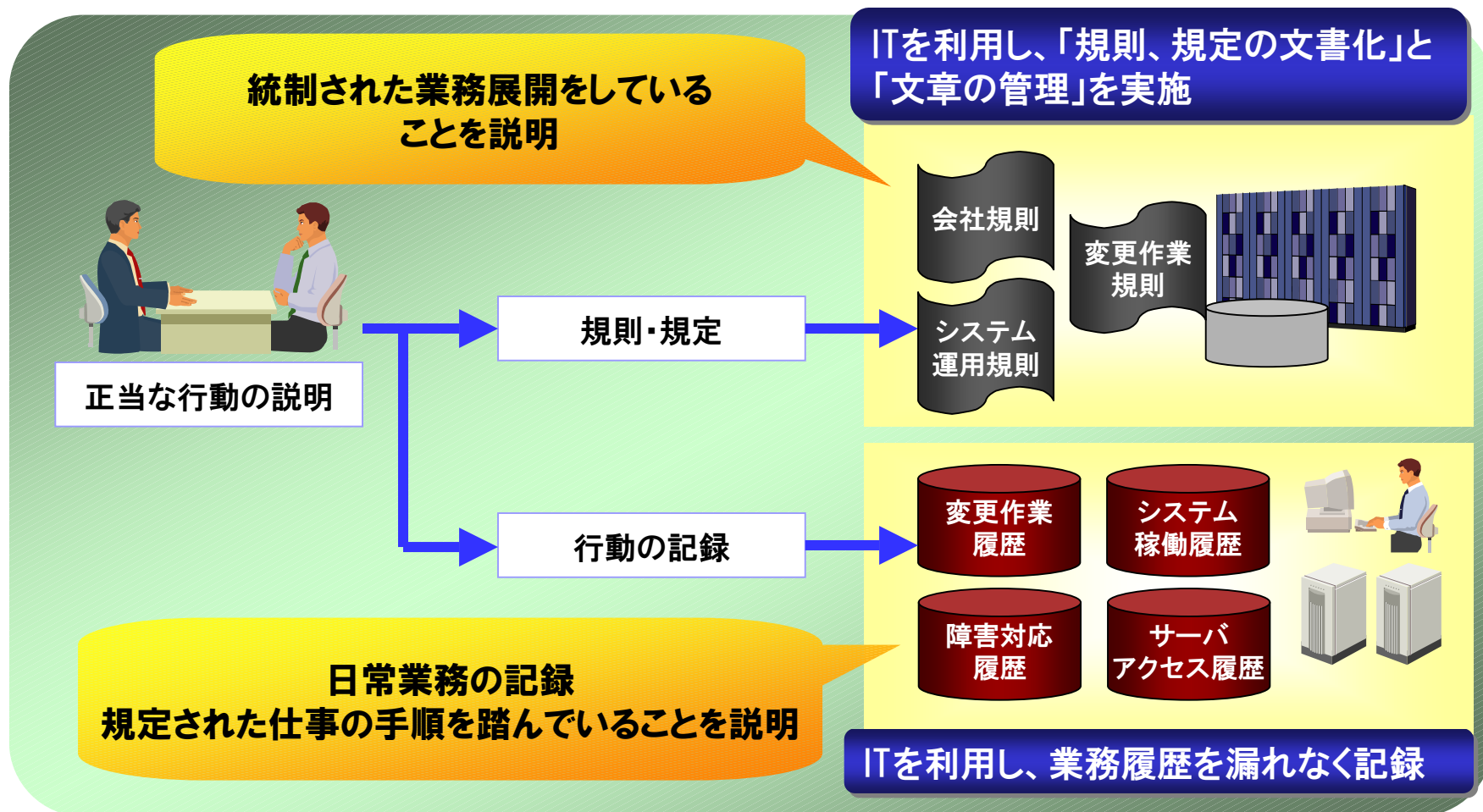


ITを使って整備すること

システムの稼働監視

問題の対策状況が把握でき、
システムが正常に稼働するように管理されていること

障害予兆の早期把握 → ビジネスへの影響を最小限にとどめる



ITを使って整備すること

活動履歴の採取

業務が見える化

→ 業務システムの正当性の証明

ミスや不正を起こりにくくするために...

業務の自動化

- ・安定したサービスの提供
- ・人の介在によるリスクの回避

安全なシステム環境を維持するために...

クライアントPCの統制

- ・情報漏えいリスクの回避
- ・安全なビジネスインフラの構築

業務要件の変更に追従するために...

作業プロセスの統制と システムの変更管理

- ・作業状況の監視
- ・不正な変更の回避

システムの信頼性を保障するために...

システムの稼働監視

- ・処理能力超過による異常動作の回避
- ・システム増強計画時のボトルネック把握

各プロセスの正当性を証明するために...

活動履歴の採取

- ・業務システムの正当性を証明
- ・各種作業の正当性を証明

uVALUE

3

JP1 V8.1 による内部統制支援



HITACHI
Inspire the Next

◆ 9年連続国内トップシェアを継続中！ (富士キメラ総研などの調査による)

2005年度、シェア28.5%

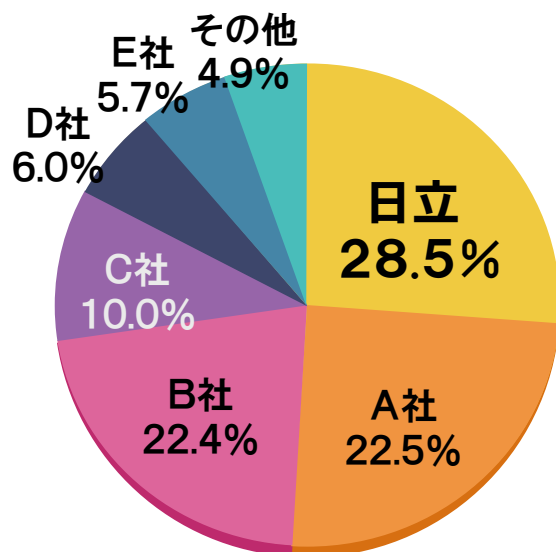
2位との差も拡大(4.8%→6.0%)

中小ボリュームゾーンにおいてもJP1は33.3%のトップシェア

【運用管理導入ソフトメーカーシェア(単位:%)】調査対象企業:年商50億円～300億円未満の中堅企業 664社(出典:株式会社ノークリサーチ 調査)

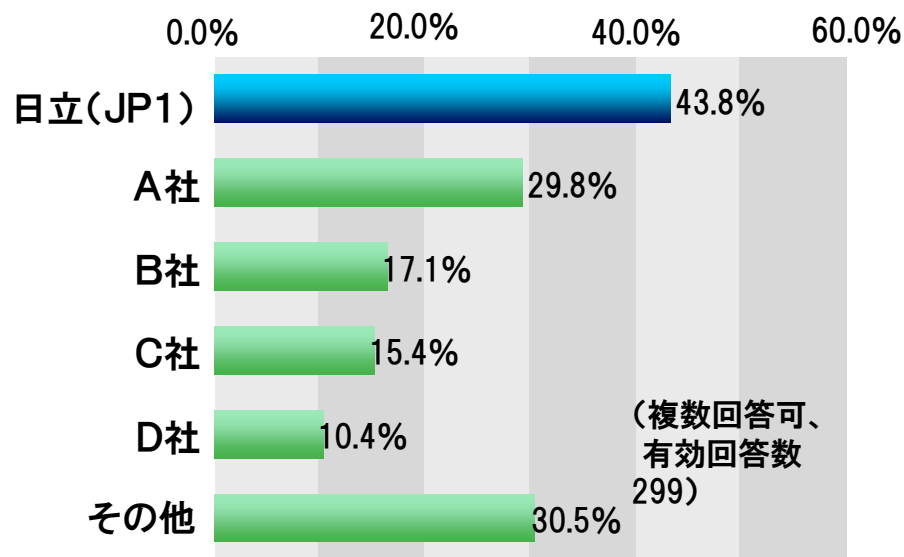
◆ ユーザー利用率は他社を10%以上引き離してトップ！

運用管理ソフトウェア国内シェア(2005年度)



[出典:富士キメラ総研、2006年9月]

利用中/導入中のシステム運用管理(統合運用管理)製品のシェア



出典:ガートナー「2006年前期 企業ユーザーITデマンド調査報告書
第2部 Server Software 」(2006年7月14日)GJ06359

経営とITが融合したビジネスレベルのシステム運用実現

- SOA(*)システムの運用PDCAサイクルを最適化
- J-SOX法対応に必要なIT全般統制のPDCAサイクルを最適化

(*)SOA:Service Oriented Architecture

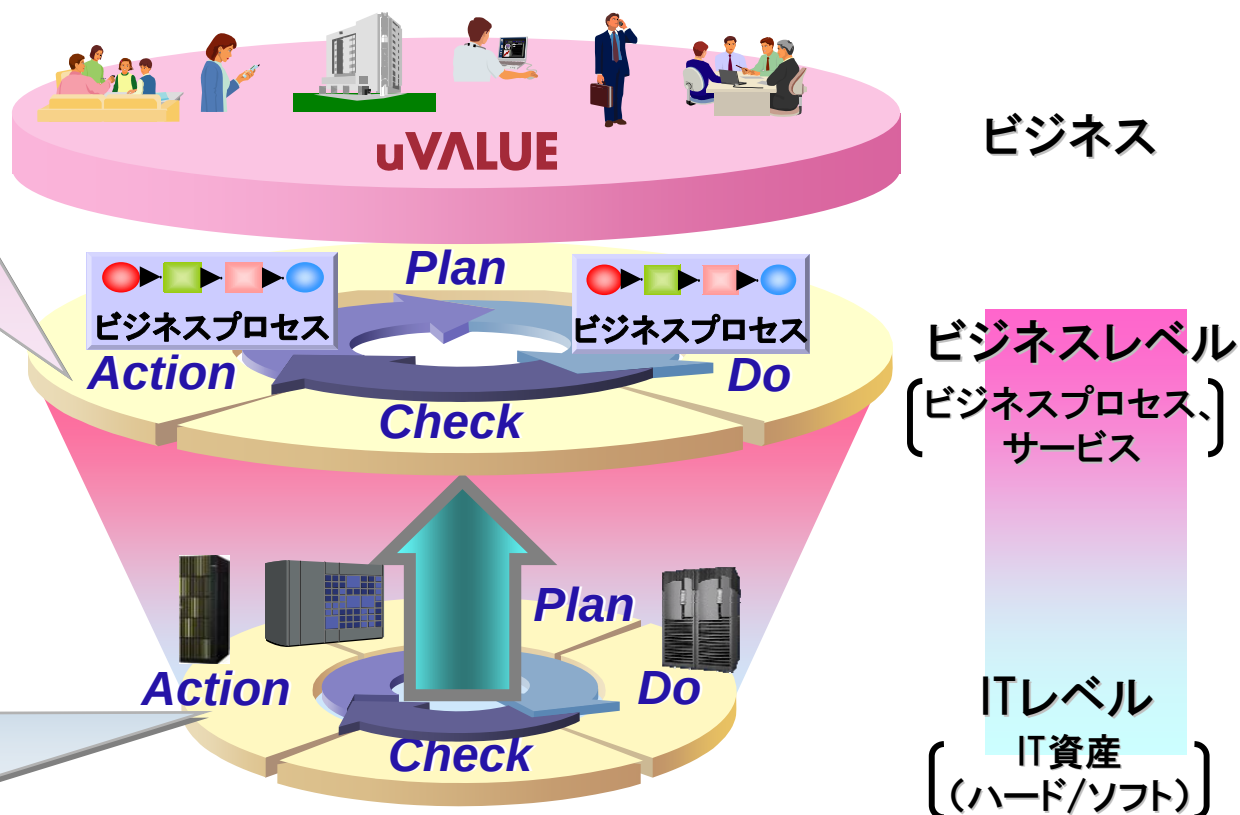
これから

ビジネスの観点を取り入れて
運用プロセスの
PDCAサイクルを最適化

ビジネスレベル運用

これまで

ITレベルで
運用プロセスの
PDCAサイクルを最適化



ビジネスレベル運用を確立する
運用管理の羅針盤へ

JP1 V8.1
— 内部統制の強化 —

ポリシーベースの
自律運用管理

JP1
Version 7i

2003/7末出荷開始

JP1
Version 8

2006/6末出荷開始

2007/3末出荷開始

ITによる内部統制強化
の支援

変化の激しいビジネス環境において、
サービス品質の維持とビジネスの透明性確保を支援し、
適切なビジネスレベル運用を実現

IT運用プロセスの統制強化

● ITプロセス管理: JP1/IM-SS

審査・承認を漏れなく行うなど運用プロセスの統制により、正しい業務運用を遂行します。

新製品

正しく運用させる
ための統制

JP1/IM-SS : JP1/Integrated Management - Service Support



運用実績の記録

強化

運用実績の記録と管理の容易化

● 監査証跡管理: JP1/NETM/Audit

業務システムにおいて内部統制がきちんと機能していることを証明するために必要とされる証跡記録を管理して監査を実現します。

新製品

正しく運用されて
いるかの証明

ミスや不正を起こりにくくするために...

業務の自動化

オートメーション

モニタリング

安全なシステム環境を維持するために...

クライアントPCの統制

ITコンプライアンス

業務要件の変更に追従するために...

作業プロセスの統制と
システムの変更管理

モニタリング

ITコンプライアンス

システムの信頼性を保障するために...

システムの稼働監視

モニタリング

各プロセスの正当性を証明するために...

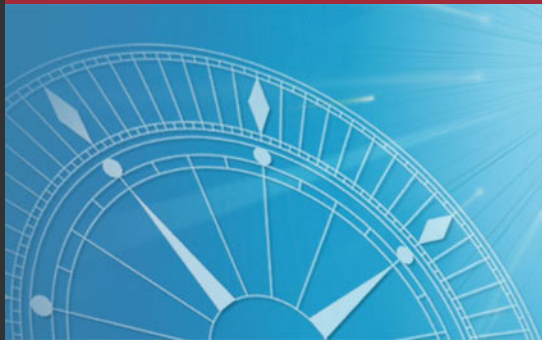
活動履歴の採取

ITコンプライアンス

uVALUE

4

業務の自動化



JP1^{Version}₈

HITACHI
Inspire the Next

ミスや不正を起こりにくくするために...

業務の自動化

オートメーション

モニタリング

安全なシステム環境を維持するために...

クライアントPCの統制

ITコンプライアンス

業務要件の変更に追従するために...

**作業プロセスの統制と
システムの変更管理**

モニタリング
ITコンプライアンス

システムの信頼性を保障するために...

システムの稼働監視

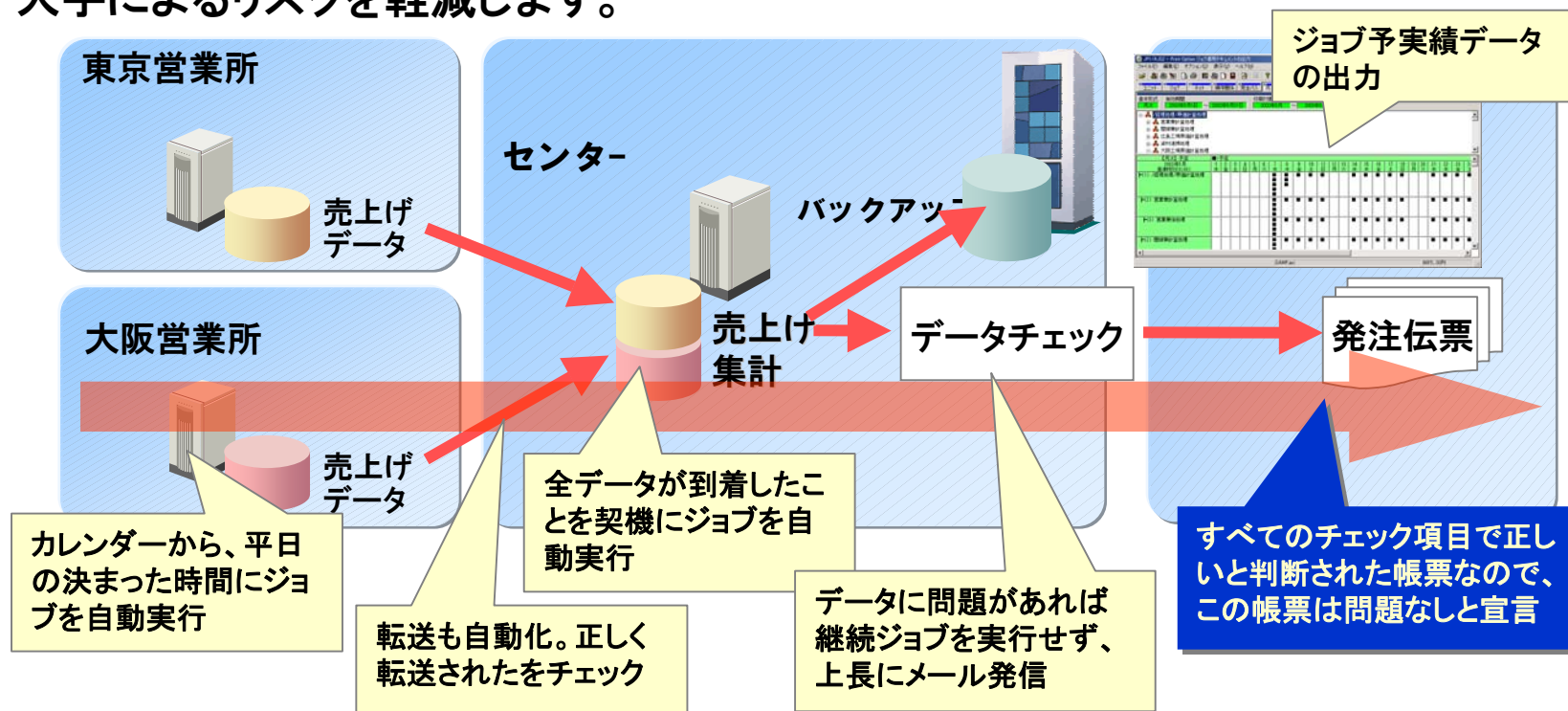
モニタリング

各プロセスの正当性を証明するために...

活動履歴の採取

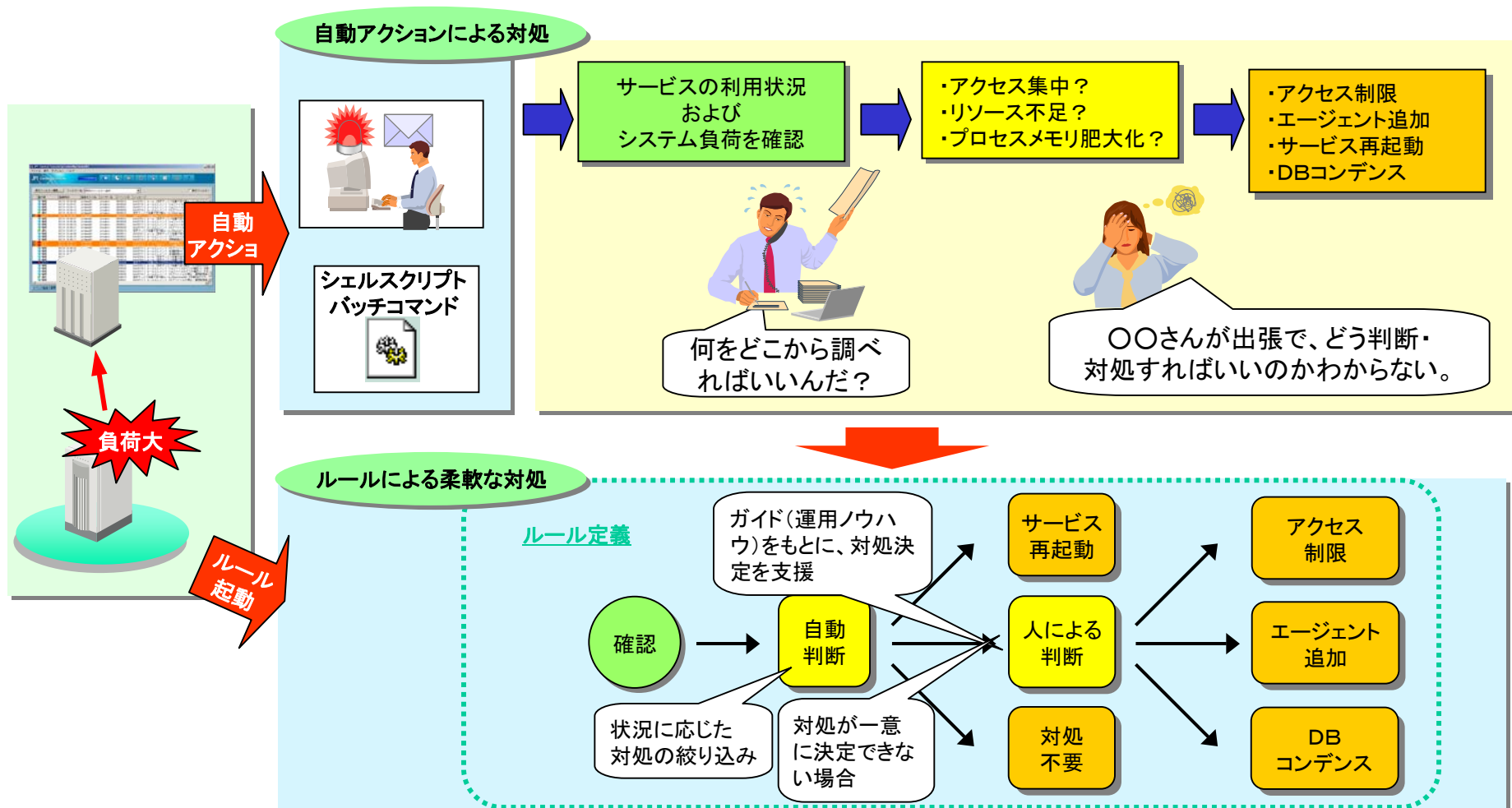
ITコンプライアンス

- 日々実行される業務を自動化することでシステムを正しく動かし、人手によるリスクを軽減します。



- ・スケジュールに従った自動運転のため、作業の遅れが発生しない
- ・ファイル転送ミスによるデータの欠落をチェック
- ・全データがそろってから計算を実施
- ・チェックも自動化、問題があれば、継続の処理を中断

- 今まで人手で行っていた障害発生時の対応をあらかじめルールとして定義しておくことで、対応を自動化し迅速な対応を実現します。
ガイド機能によって、個人のスキルに頼らないシステム運用が可能です。



uVALUE

5

クライアントPCの統制



HITACHI
Inspire the Next

ミスや不正を起こりにくくするために...

業務の自動化

オートメーション

モニタリング

安全なシステム環境を維持するために...

クライアントPCの統制

ITコンプライアンス

業務要件の変更に追従するために...

作業プロセスの統制と
システムの変更管理

モニタリング
ITコンプライアンス

システムの信頼性を保障するために...

システムの稼働監視

モニタリング

各プロセスの正当性を証明するために...

活動履歴の採取

ITコンプライアンス

● クライアントPCからの情報漏えいの主な原因は、以下の2つです。

- ・従業員のセキュリティ対策に対する意識の低さ
- ・社内でのクライアントセキュリティ対策漏れ

ITによって情報漏えいを回避し、安全なビジネス環境の維持を支援します。

不正ソフトウェアを
使わせない

ウイルス対策
脆弱性対策

不正なPCの排除

社内情報を自宅に
持ち帰らせない

部署	最低点	平均点	台数
横浜支社/営業本部/第一営業部	3	51	32
横浜支社/営業本部/第二営業部	3	48	33
横浜支社/開発本部/第一開発部	6	55	31
横浜支社/開発本部/第三開発部	3	51	30
横浜支社/開発本部/第二開発部	3	51	45
川崎支社/人事本部/第一人事部	3	53	37
川崎支社/人事本部/第三人事部	6	49	28
川崎支社/人事本部/第四人事部	6	48	27
川崎支社/人事本部/第二人事部	6	58	44
川崎支社/品質保証本部/第一品質保証部			20
川崎支社/品質保証本部/第二品質保証部			84

クライアントPCの
セキュリティ対策評価

Manager (administrator) - Network Monitor

不正PC接続件数の集計

ネットワーク	サブグループ	グループ	IPアドレス	最終	接続数	ダウンロード	アップロード	接続時間	接続速度	接続状態
営業部	本社	本社	192.168.0.5	2007/01/16 18:58:55	13	18	30	16	0	0
総務部	本社	本社	192.168.1.5	2007/01/16 18:58:55	13	18	30	16	0	0
横浜支社	関東	支社	192.168.2.5	2007/01/16 18:58:55	13	18	30	16	0	0
千葉支社	関東	支社	192.168.3.5	2007/01/16 18:59:13	55	59	96	58	0	0
名古屋支社	中部	支社	192.168.4.5	2007/01/16 18:58:55	13	18	30	16	0	0
大阪支社	関西	支社	192.168.5.5	2007/01/16 18:58:55	13	18	30	16	0	0



漏れのないクライアントセキュリティ対策を実現するためには、
従業員のモラル向上 + ITの仕組みでガードすることが必要！

プラス

uVALUE

6

作業プロセスの統制とシステム変更管理



JP1^{Version}₈

HITACHI
Inspire the Next

ミスや不正を起こりにくくするために...

業務の自動化

オートメーション

モニタリング

安全なシステム環境を維持するために...

クライアントPCの統制

ITコンプライアンス

業務要件の変更に追従するために...

**作業プロセスの統制と
システムの変更管理**

モニタリング

ITコンプライアンス

システムの信頼性を保障するために...

システムの稼働監視

モニタリング

各プロセスの正当性を証明するために...

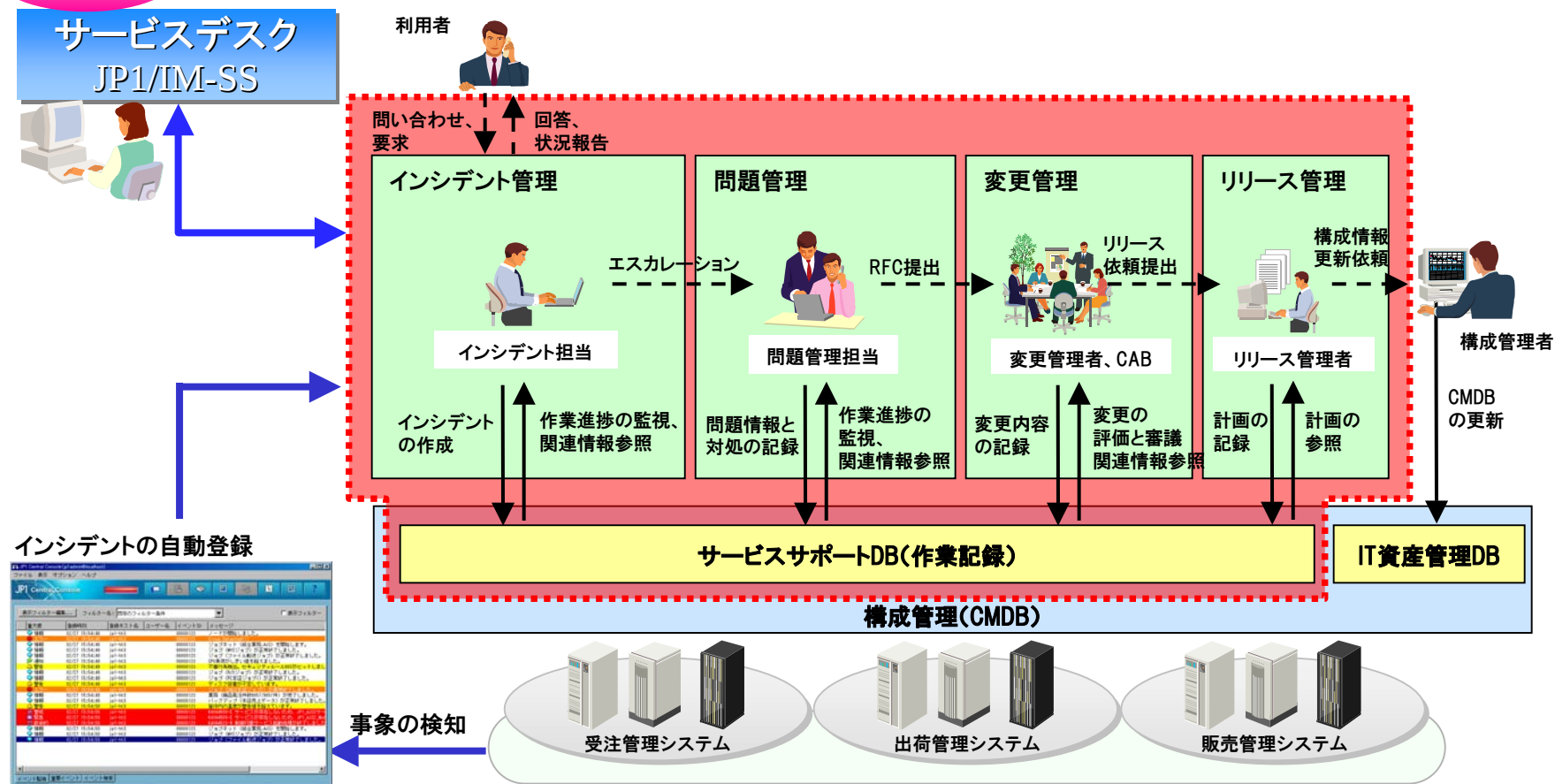
活動履歴の採取

ITコンプライアンス

- ITIL®に沿った運用プロセスの統制を実現。サービスサポートDBにより情報を共有化し、作業プロセスの統制・監視の実現します。

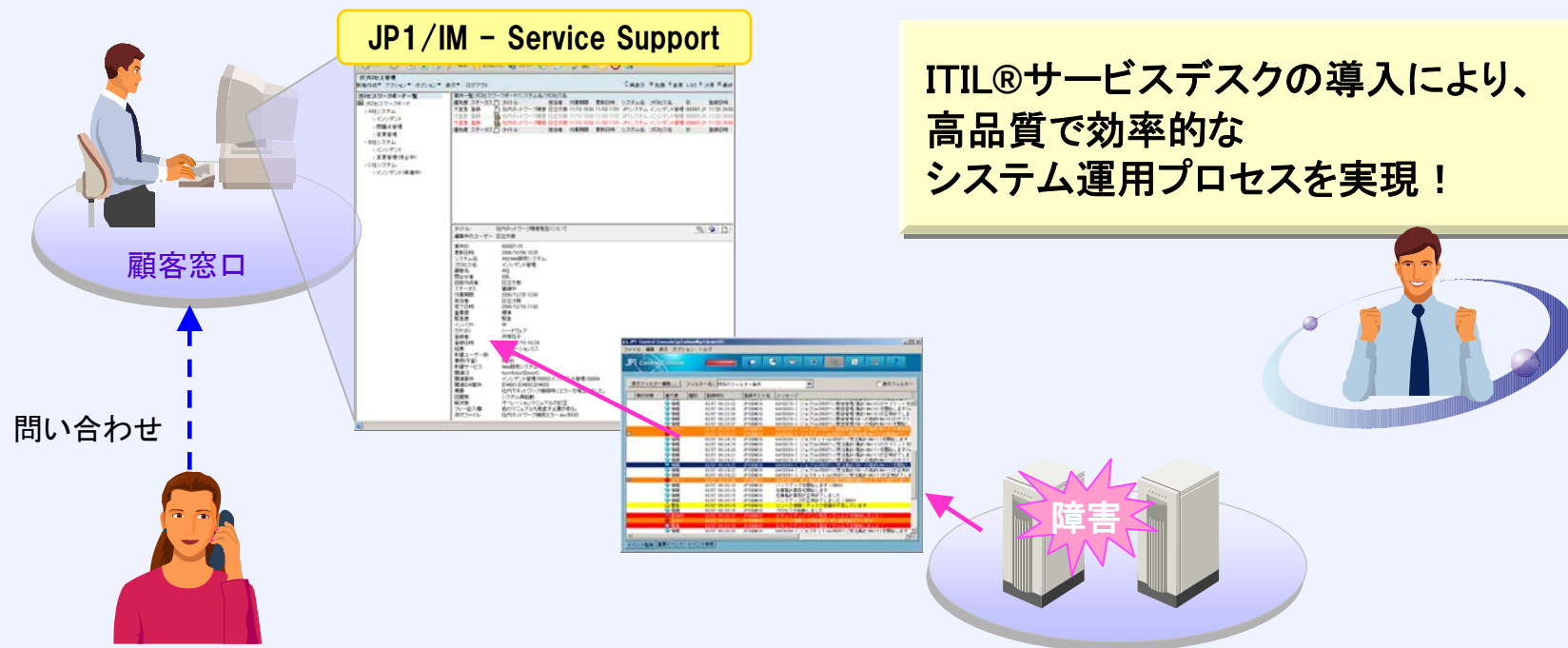
NEW

ITIL:IT Infrastructure Library



- JP1/IM – SSを導入することにより、次のようなメリットが得られます。

導入のメリット



●プロセスの状況をひと目で把握

各プロセスの状況を表示できるので、「遅延しているか」など、状態をひと目で把握できます。

●情報の共有

類似問題を手がかりに迅速に解決できます。また各担当者が情報を共有できるので、作業内容の水準を向上できます。

●プロセスの統

適切な担当者が作業を審査・承認する運用を実現します。また、蓄積された情報から、ボトルネックや運用の分析・改善が可能です。

- ITIL®の各プロセス(インシデント管理、問題管理、変更管理、リリース管理)の作業記録を案件として一元管理することで、各プロセスで行われている作業の関連を把握できます。

The screenshot shows a web-based interface for ITIL process management. On the left, a navigation menu lists various systems and processes. The main area displays a table of incidents, with one incident highlighted in red to indicate an expired deadline. A detailed view of this incident is shown on the right, including fields for priority, status, title, assignee, deadline, update time, system name, process name, ID, and registration time. Below the table, a detailed description of the incident is provided.

プロセスワークボード

- 新規作成
- アクション
- サブアクション
- 表示
- ログアウト

プロセスワークボード一覧

- プロセスワークボード
- A社システム
 - インシデント
 - 問題点管理
 - 変更管理
- B社システム
 - インシデント
 - 変更管理(停止中)
- C社システム
 - インシデント(準備中)

案件一覧

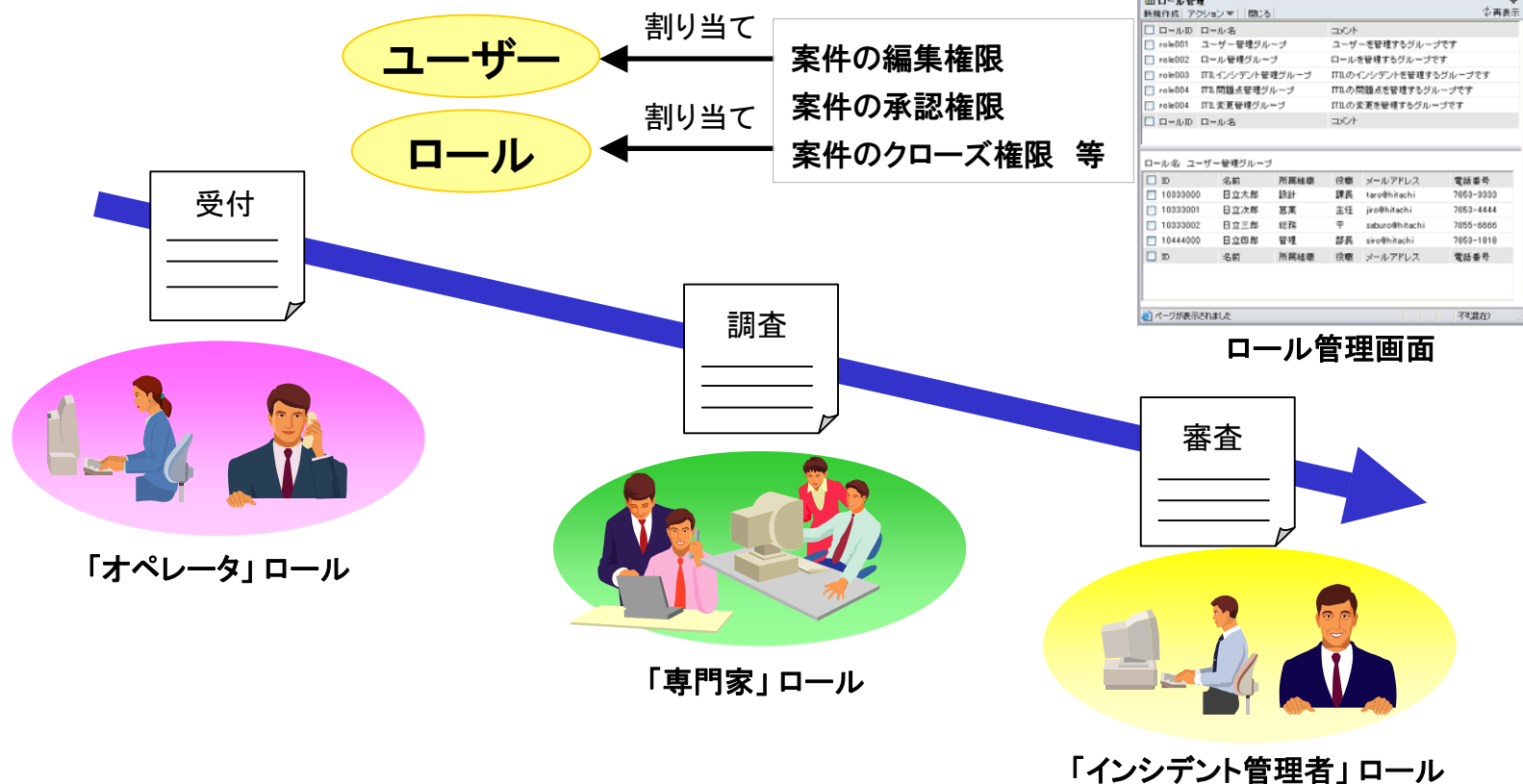
優先度	ステータス	タイトル	担当者	作業期限	更新日時	システム名	プロセス名	ID	登録日時
大至急	登録	社内ネットワーク障害	日立太郎	11/10 15:00	11/03 17:01	JP1システム	インシデント管理	000001_01	11/20 20:00
大至急	登録	社内ネットワーク障害	日立太郎	11/10 15:00	11/03 17:01	JP1システム	インシデント管理	000001_01	11/20 20:00
大至急	登録	社内ネットワーク障害	日立太郎	11/10 15:00	11/03 17:01	JP1システム	インシデント管理	000001_01	11/20 20:00

案件詳細

作業期限: 2006/12/25 12:00
 担当者: 日立太郎
 完了日時: 2006/12/10 11:00
 重要度: 標準
 緊急度: 緊急
 インパクト: 中
 カテゴリ: ハードウェア
 登録者: 戸塚花子
 登録日時: 2006/12/10 10:28
 結果: オペレーションミス
 影響ユーザー数: 100000
 費用(予算): 50000
 影響サービス: Web販売システム
 関連OS: hostAhostBhostC
 関連案件: インシデント管理/000003.インシデント管理/00004
 関連IDM案件: IDM001.IDM002.IDM003
 概要: 社内ネットワーク接続時にエラーが発生しました。
 回復策: システム再起動
 解決策: オペレーションマニュアルの訂正
 フリー記入欄: 他のマニュアルも見直す必要がある。
 添付ファイル: 社内ネットワーク接続エラー.doc(5KB)

メイン画面

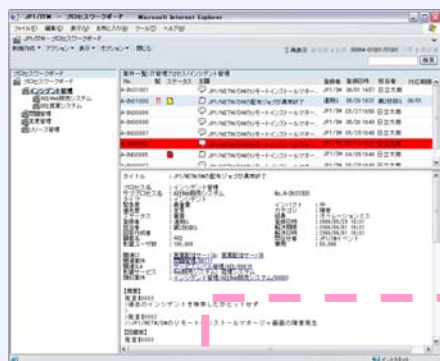
- 担当者ごと、またはロール(グループ)ごとに操作権限を設定できます。



- ユーザーの作業分担ごとに「ロール」を作成し、ユーザーをグルーピングできます。
作業の割り当てやメール通知先に「ロール」を指定できるため、作業の分担を支援し、担当者不在による案件の沈み込みを防止できます。
- 各プロセスの案件に対して、ユーザーまたはロールの単位で、案件の操作権限を割り当て可能です。

- 各担当者に適切な操作権限を割り当てることで、不正な処理を防げます。

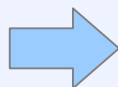
権限の設定例



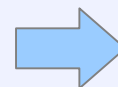
メイン画面

インシデント
担当

- インシデント担当者
変更、参照：OK
承認、エスカレーション：NG
クローズ：NG

インシデント
管理者A

- インシデント管理者A
変更、参照：OK
承認、エスカレーション：OK
クローズ：NG

インシデント
管理者B

- インシデント管理者B
変更、参照：OK
承認、エスカレーション：NG
案件(承認済み)のクローズ：OK

各担当者に下記のような権限をそれぞれ設定することで、

- 担当者が作成した内容は、**管理者A、管理者Bを経由しないとクローズできない。**
- **クローズした案件はすべて承認済みであることを保証**できる。

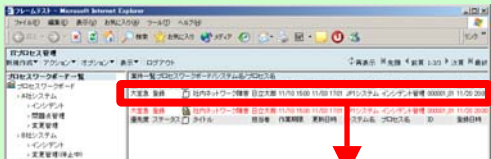


役割や責任が明確化され、審査・承認を漏れなく行うなど、作業手順を標準化できるため、システム全体の信頼性を向上できます。

- 案件を他のプロセスの担当者にエスカレーションできます。

エスカレーション例

インシデント管理



インシデント管理

エスカレーション先指定
プロセスワークボード/B社システム/問題点管理

- A社システム
 - インシデント管理
 - 問題点管理**
 - 変更点管理
 - リリース管理
- B社システム
 - インシデント管理
 - 変更点管理
 - リリース管理
- C社システム
 - インシデント管理
 - 問題点管理
 - 変更点管理
 - リリース管理

OK キャンセル

インシデント担当

エスカレーション

エスカレーション

問題管理



問題管理

問題管理担当A

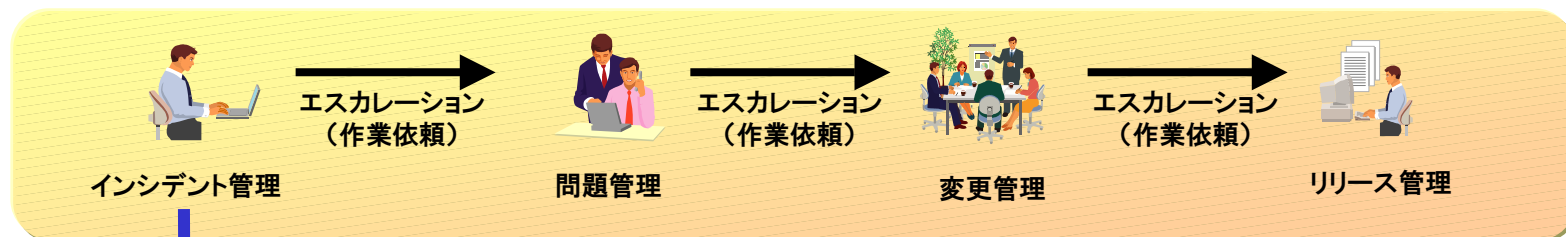
メール通知

問題管理担当B

メール通知

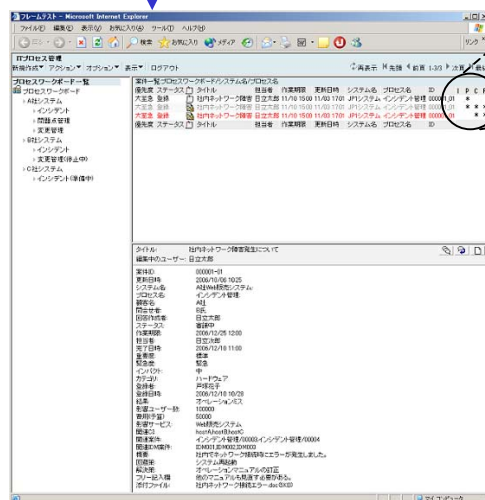
- 他の管理担当者に作業を依頼し、メールで通知。作業漏れを防止できます。
- エスカレーション機能により作成された案件の関係は自動で記録。プロセスの担当者間の情報共有を支援します。

- エスカレーションや作業状況の監視など、作業統制に必要な運用を支援し、作業手順の未整備によるリスクを軽減します。



参照

依頼した作業の
状況はどうだろう？



メイン画面

時	IPCR
12/15 19:44:51	*
12/15 19:45:24	* * * *
12/15 19:45:41	* * *
時	IPCR

詳細表示

案件がどの段階までエスカレーション
されたかわかります(サマリ表示)

- ・I (Incident) : インシデント管理
- ・P (Problem) : 問題管理
- ・C (Change) : 変更管理
- ・R (Release) : リリース管理

システム	プロセス	案件ID	ステータス	エスカレーション元ID	エスカレーション先ID	プロセスID
システムA	インシデント管理	PW01-000001	クローズ	-	PW02-000003, PW02-000008	000005-01
システムA	問題管理	PW02-000003	調査中	PW01-000001	PW03-000006	000005-02
システムB	問題管理	PW02-000005	審議中	PW01-000001	PW03-000006	000005-03
システムA	変更管理	PW03-000006	計画中	PW02-000003	PW03-000010	000005-04
システムB	変更管理	PW03-000008	計画中	PW02-000005	-	000005-05
システムA	リリース管理	PW03-000010	受付	PW03-000006	-	000005-06
システム	プロセス	案件ID	ステータス	エスカレーション元ID	エスカレーション先ID	プロセスID

関連案件状態画面(エスカレーション先の詳細)

さらに詳細がわかります。
エスカレーション先の案件は
調査中？担当者？ など

- 過去の変更履歴を確認できます。問題が発生した機器のハードウェアやソフトウェアの変更状況を確認でき、不正なシステム変更の防止を支援します。

部署	
変更日付	(YYYYMMDD) 以前 ▼
資産番号	
変更項目	☒ CPU ☒ メモリ ☒ ディスク

検索

変更日時、変更項目等の検索条件を指定して検索

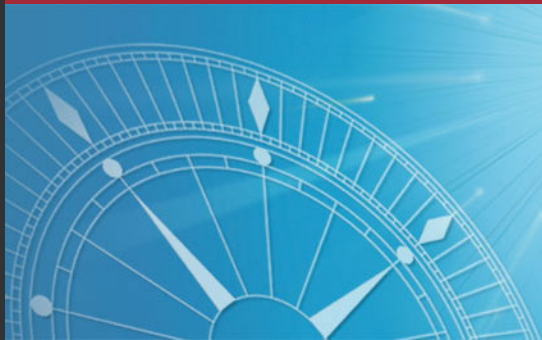
検索条件に合った機器の一覧を表示

変更日付△	変更前	変更後	資産番号	部署	ユーザ名
2004/01/18 02:57:41	CPUクロック数: CPU数: CPU: メモリサイズ: ディスク容量:	CPUクロック数:1000MHz CPU数:2 CPU: Intel Pentium III メモリサイズ:128MB ディスク容量:20GB	1000000001	本社/営業部/営業1課	営業太郎
2004/01/20 02:00:00	メモリサイズ:128MB ディスク容量:20GB	メモリサイズ:256MB ディスク容量:40GB	1000000001	本社/営業部/営業1課	営業太郎
2004/01/25 02:00:00	メモリサイズ:256MB ディスク容量:40GB	メモリサイズ:512MB ディスク容量:60GB	1000000001	本社/営業部/営業1課	営業太郎
2004/02/01 02:00:00	メモリサイズ:512MB ディスク容量:60GB	メモリサイズ:1024MB ディスク容量:80GB	1000000001	本社/営業部/営業1課	営業太郎
2004/02/10 02:00:00	ディスク容量:80GB	ディスク容量:100GB	1000000001	本社/営業部/営業1課	営業太郎
2004/02/18 02:57:42	CPUクロック数: CPU数: CPU: メモリサイズ: ディスク容量:	CPUクロック数:500MHz CPU数:1 CPU: Intel Pentium III メモリサイズ:512MB ディスク容量:40GB	1000000005	本社/資産管理部	資産太郎

uVALUE

7

システムの稼働監視



JP1^{Version}₈

HITACHI
Inspire the Next

ミスや不正を起こりにくくするために...

業務の自動化

オートメーション

モニタリング

安全なシステム環境を維持するために...

クライアントPCの統制

ITコンプライアンス

業務要件の変更に追従するために...

**作業プロセスの統制と
システムの変更管理**

モニタリング

ITコンプライアンス

システムの信頼性を保障するために...

システムの稼働監視

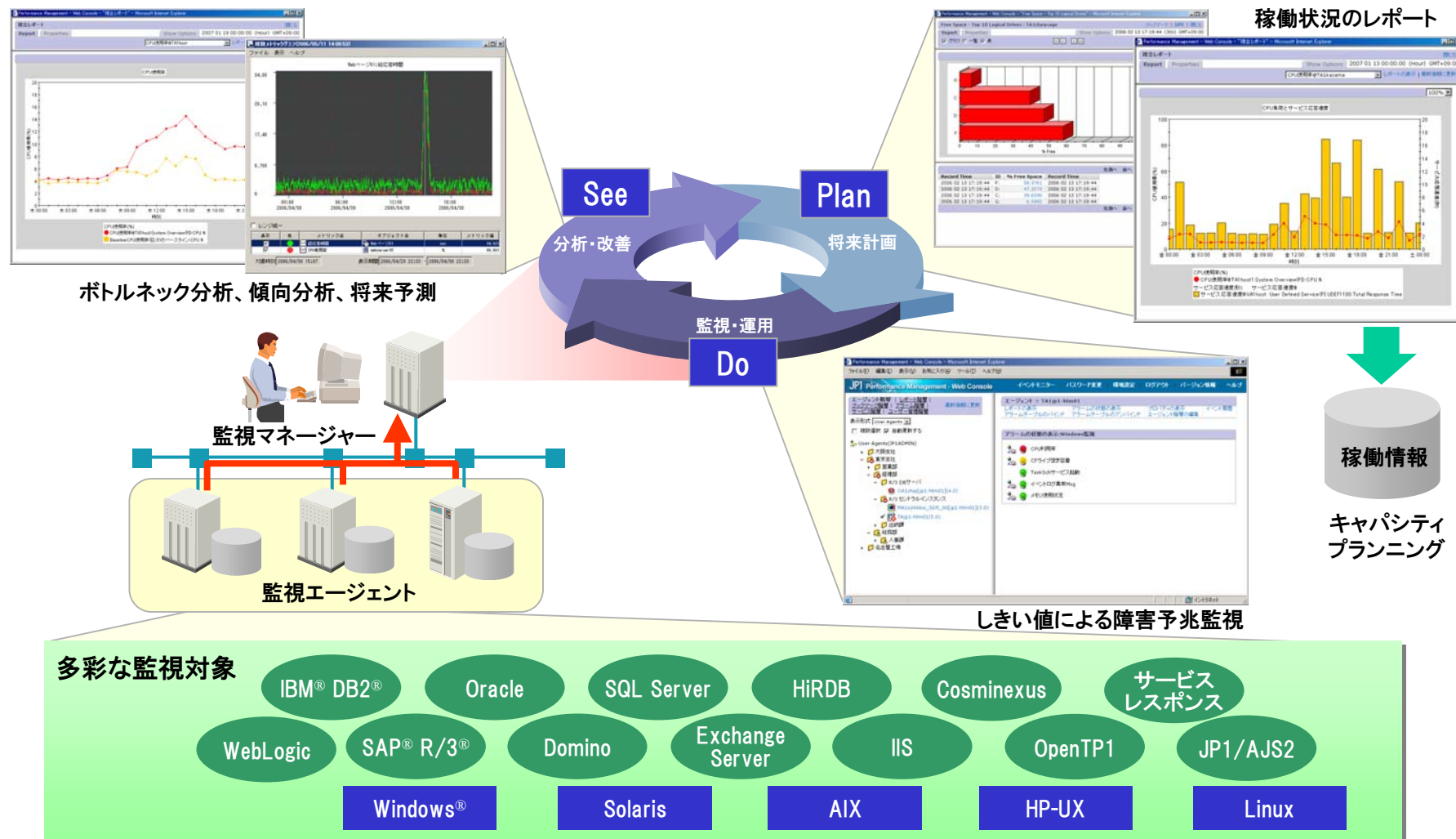
モニタリング

各プロセスの正当性を証明するために...

活動履歴の採取

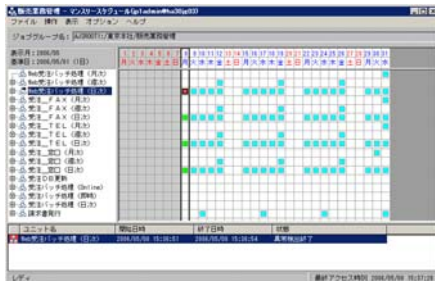
ITコンプライアンス

- システム内のさまざまな稼働状況を一元監視。障害予兆検知や、ボトルネック、将来予測などの分析を実現し、システム監視の不備によるリスクを軽減します。



- JP1/AJS2のジョブの滞留時間や実行数を監視することで、ジョブ実行サーバの稼働状況を監視することが可能。
また、長期的なレポートにより、キャパシティプランニングを支援。

JP1/AJS2管理コンソール



管理コンソール起動



レポート表示



Webブラウザ

JP1/AJS2 - View

JP1/PFM - Manager

障害

JP1/PFM - Agent for JP1/AJS2

JP1/PFM - Agent for JP1/AJS2

JP1/AJS2-Manager

JP1/AJS2-Manager

JP1/AJS2-Agent

JP1/AJS2-Agent

HP-UX

Solaris

AIX

Linux

JP1/AJS2-Agent

JP1/AJS2-Agent

JP1/Base

JP1/Base

JP1/Base

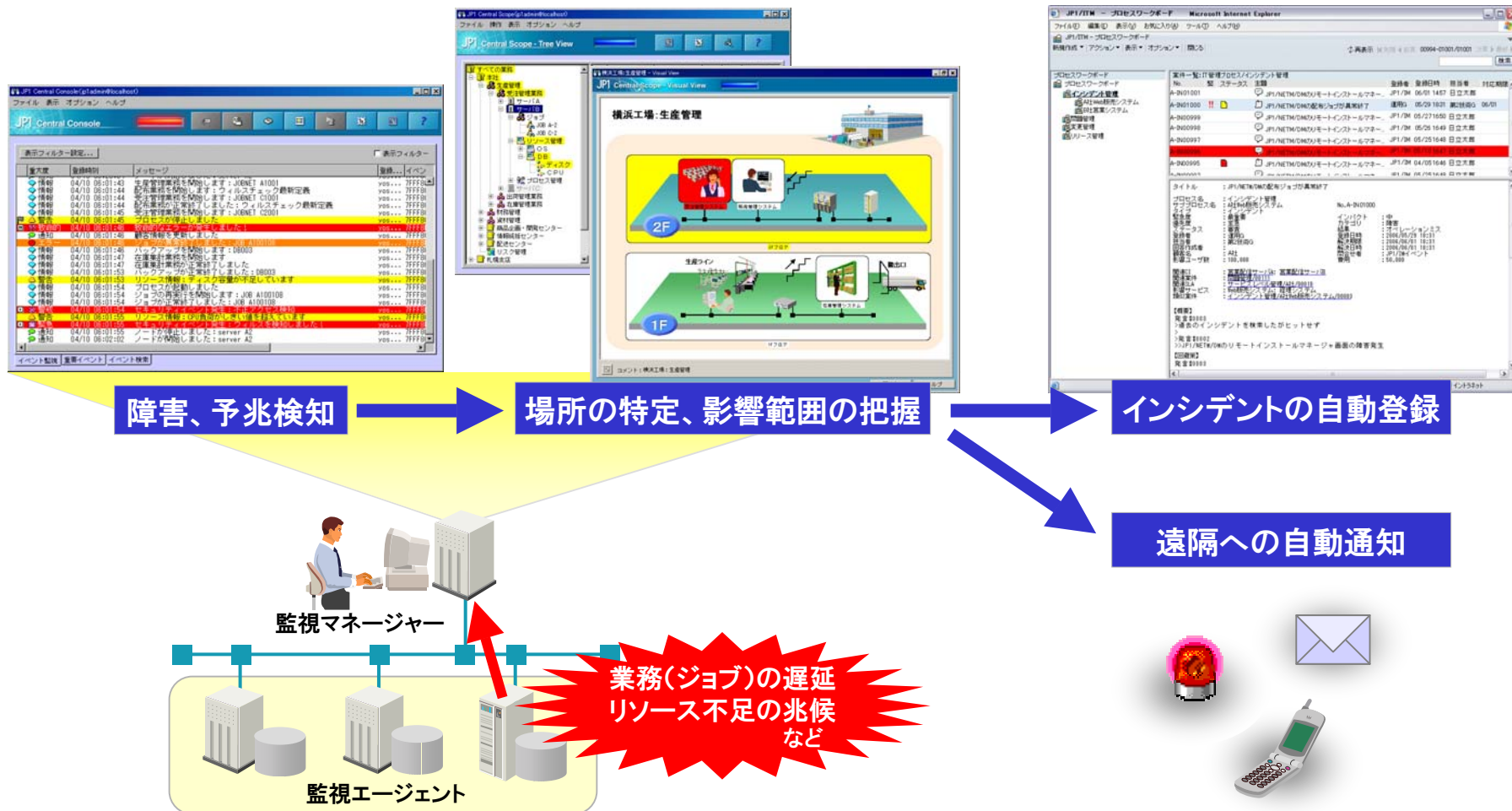
JP1/Base

JP1/Base

JP1/Base

※: JP1/Automatic Job Management System 2

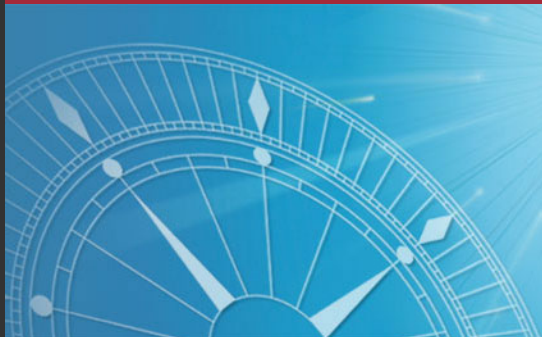
- システム内のさまざまな事象を一元管理。障害発生場所の特定から影響範囲の把握まで迅速に対応できるため、対処遅れによるリスクを軽減します。



uVALUE

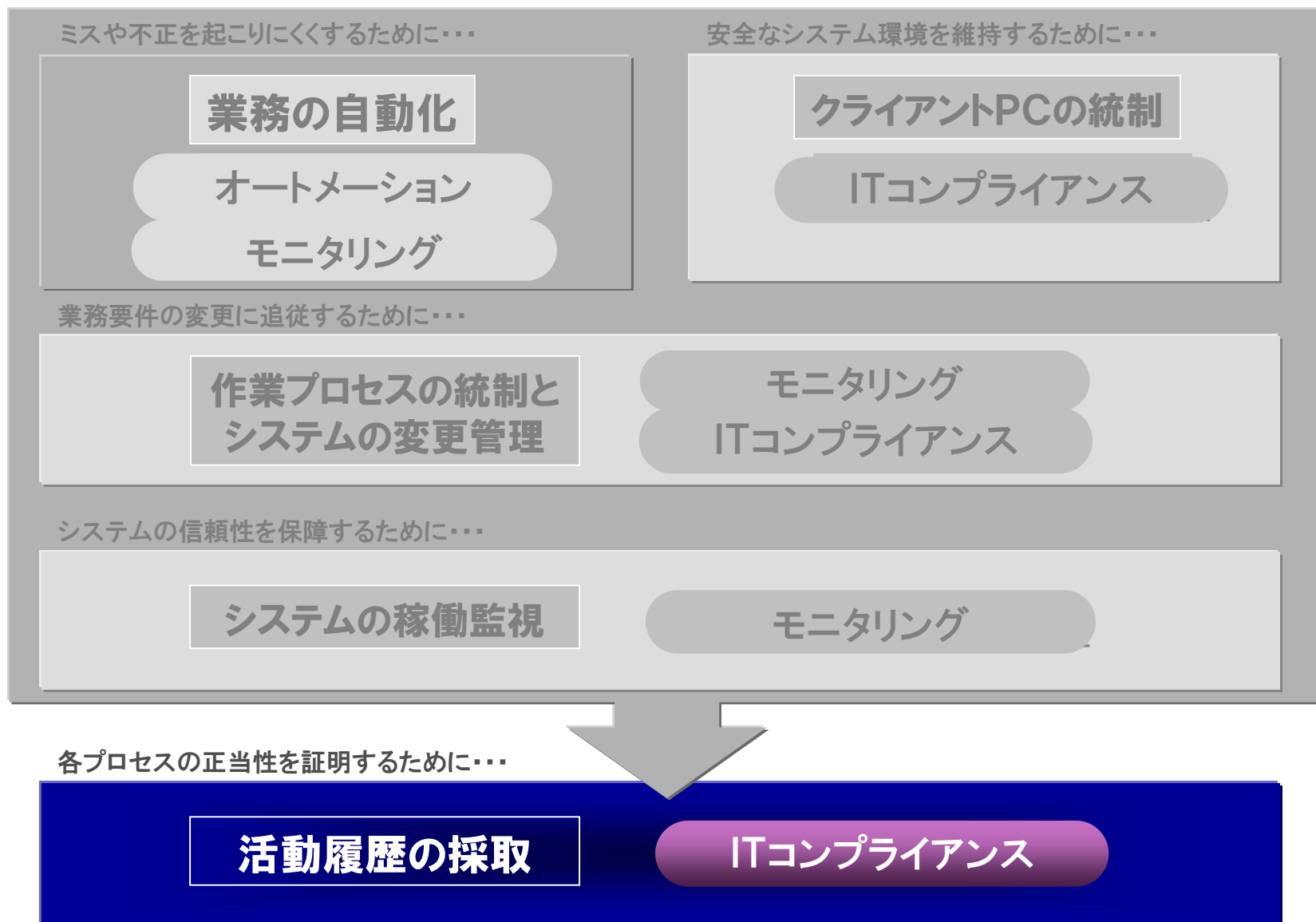
8

活動履歴の採取

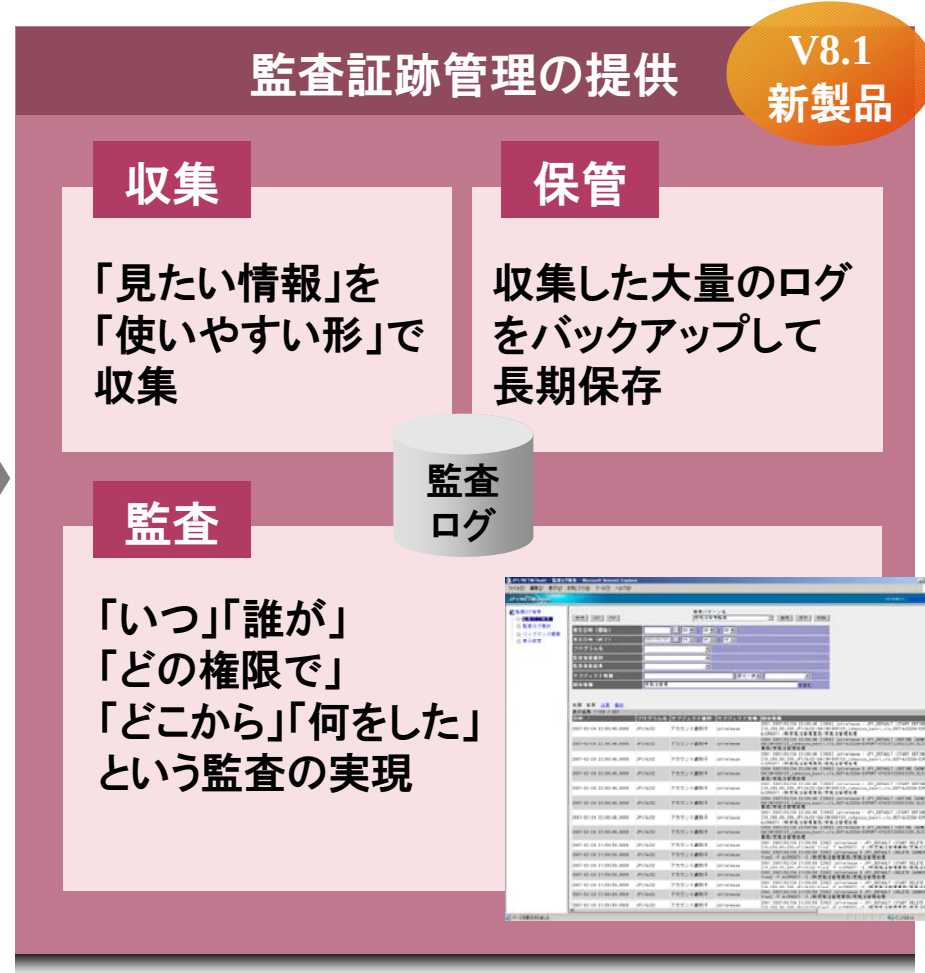
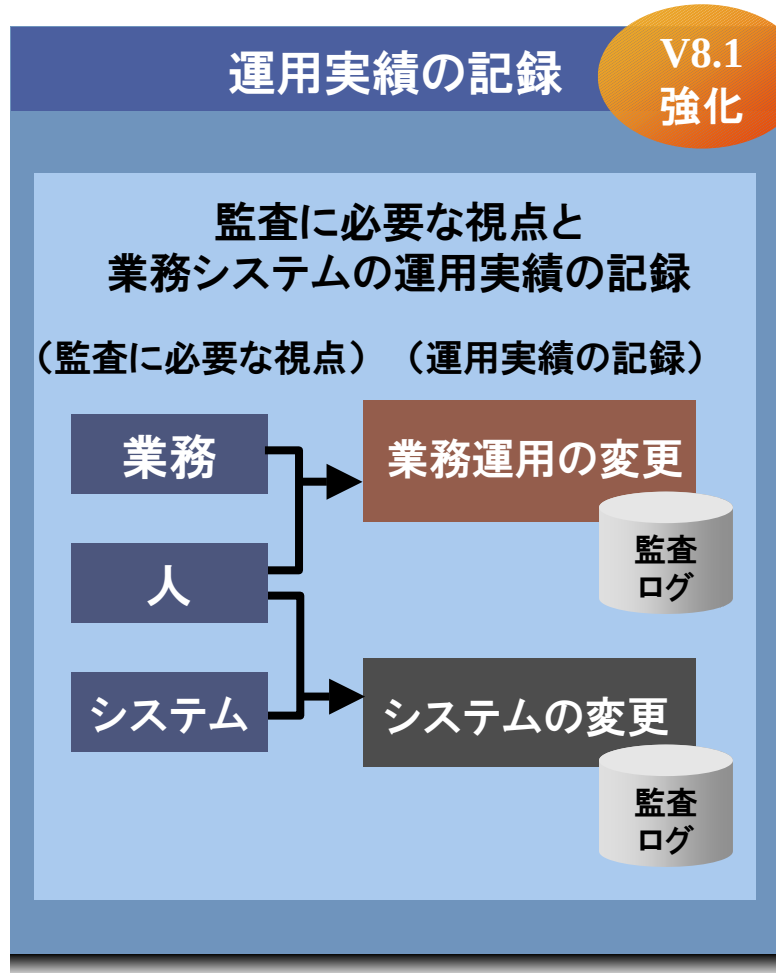


JP1^{Version}
8

HITACHI
Inspire the Next



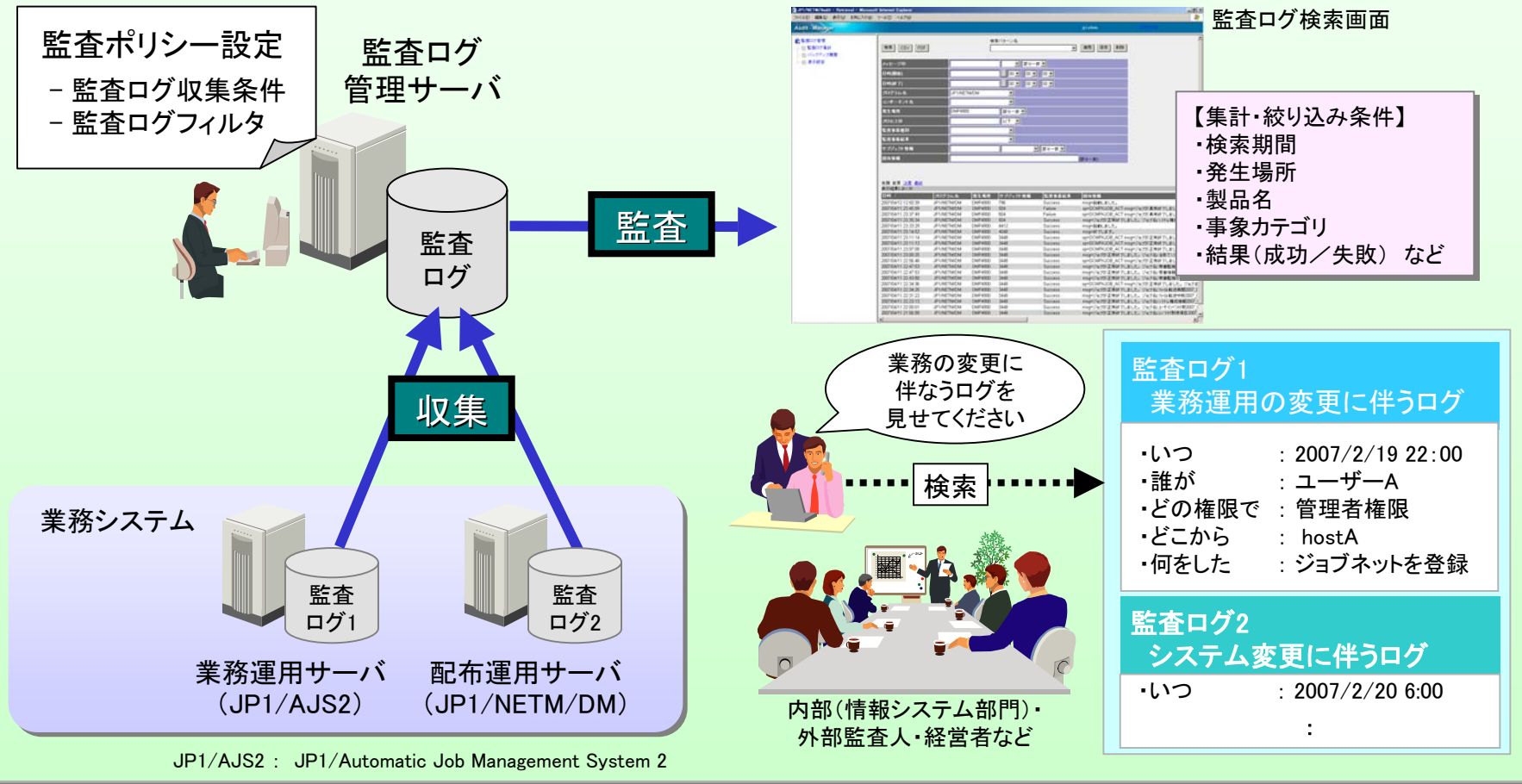
- 業務運用の変更、サーバ上で動作するアプリケーションの更新、ユーザー情報の追加・変更といった、サーバ運用に関するログ情報を自動収集し一元管理します。また、検索機能などにより、監査時の運用を容易化します。



運用実績の記録を容易に収集・監査

- JP1を利用した業務システムの運用であれば、自動的に監査ログを収集します。
収集したログの監査は、さまざまな観点から、きめ細かく、容易に行えます。

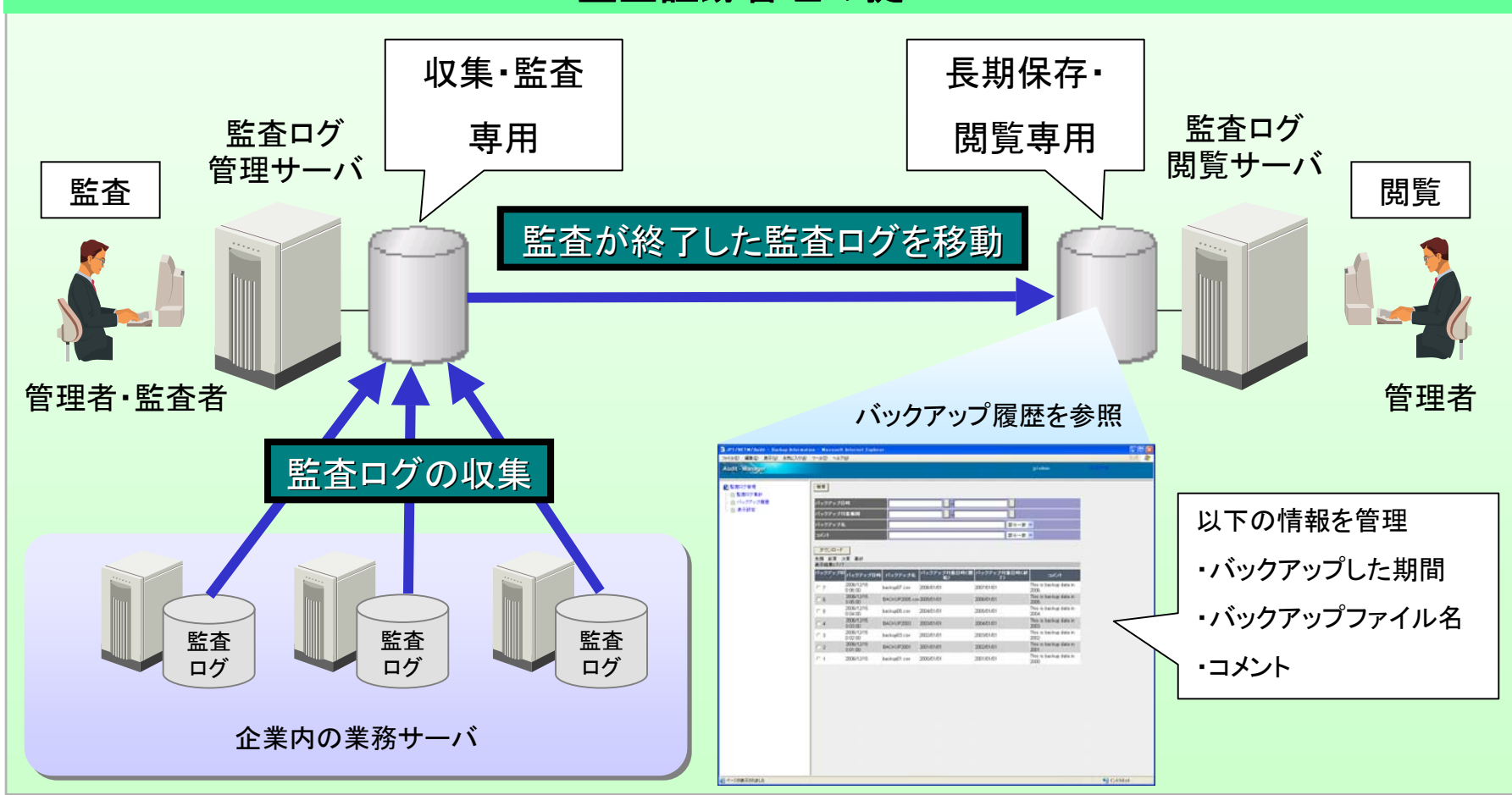
監査証跡管理の提



運用実績の記録を容易に保管

- 長期保管のために、収集した監査ログを一定期間ごとにバックアップします。運用に関するバックアップも手間はかかりません。

監査証跡管理の提



- クライアントPCにおける各種操作ログを統合的に監査。
クライアント監査の支援や従業員のモラル向上が図れます。

操作ログの検索画面で、外部に持ち出したり、
印刷を実行したファイルの追跡に必要な情報を取得。

取得可能なログ

- ・外部への持ち出し
- ・ファイルのコピー
- ・ファイルの移動、削除、印刷
- ・アプリケーションの起動 等

ファイル名や、外部媒体
へのコピーなどの操作で
ログ情報を絞り込み

マネージャー

JP1/NETM/DM Manager

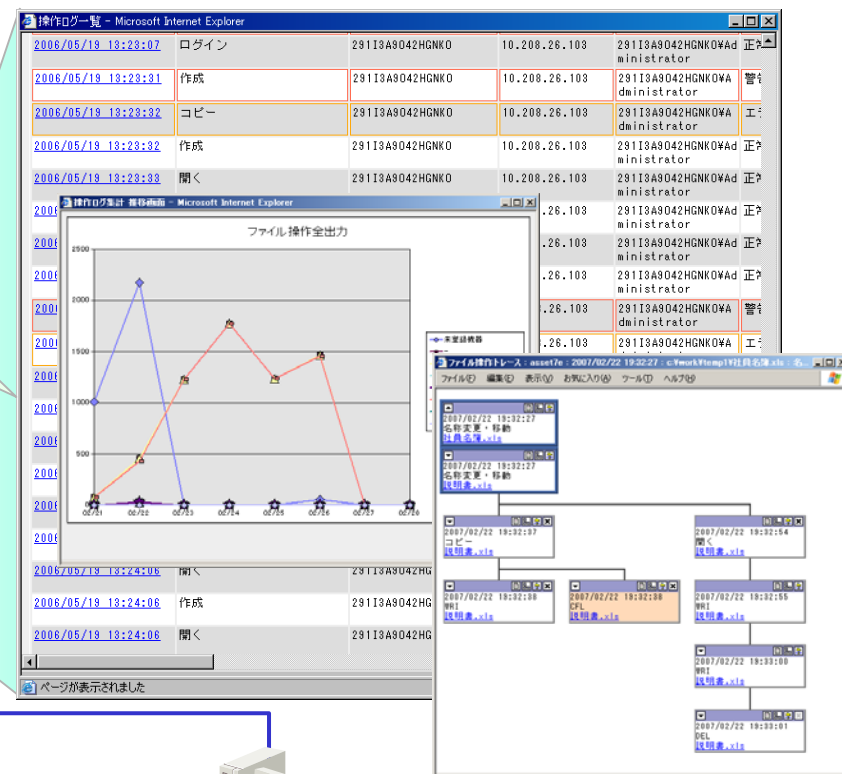
ファイル操作の
ログ情報を取得

ファイルのコピー、
移動、削除など
を実行

クライアントA

クライアントB

クライアントZ



uVALUE

9

JP1による内部統制強化のススメ



HITACHI
Inspire the Next

内部統制は
J-SOX法に対応するため？

－(マイナス)のイメージ



本来の業務とは別の
新たな課題が増える

コストが
かかる

発想の転換

内部統制は

●業務を見直し、効率化を図る良いきっかけ

- 新たな課題が増えるのではなく、本来あるべき姿にする
- コスト削減につながる

●強い企業に変わるチャンス！

＋(プラス)のイメージ

せっかくやるなら
前向きに！



内部統制を行うと・・・

- 不正やミスが減る
＝ 余計な仕事が発生しない
→ リスクが小さくなる
- 業務の見直し、効率化が図れる
→ コストが下がる
→ 本来あるべき正しい業務プロセスになる
→ 業績アップにつながる

●企業競争力、企業価値が高まる
(経営者や株主にとってもメリット)



①必要な部分から小規模に導入可能

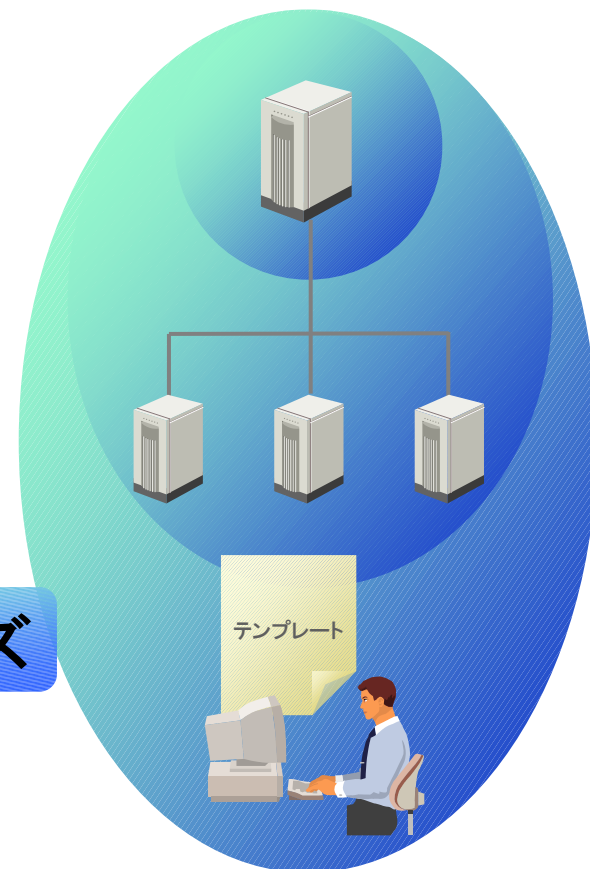
- ・内部統制の準備には時間をかけられない

②将来、システム全体への拡張が容易

- ・別システムを管理するときに別のツールが必要では、
かえって運用管理の負荷が高くなる

③テンプレート装備で運用開始がスムーズ

- ・高機能でも、使いこなせなければ運用負荷が高くなるだけ
- ・ツールの習熟に時間や費用をかけられない



JP1はすべての条件を満たしています！

長期の存続性

+

豊富な導入実績

+

サポート力

内部統制の強化と同時に、企業価値を向上させる ITインフラの実現を支援します。

uVALUE

付録 デモンストレーション

A horizontal banner with a blue background. On the left, there is a white line-art illustration of a circular gauge or clock face with several pointers. In the center, a bright yellow sun-like icon emits white rays across the banner. On the right, the text 'JP1' is written in large white letters, with 'Version' in smaller italicized white letters and '8' in large white letters below it.

JP1^{Version}
8

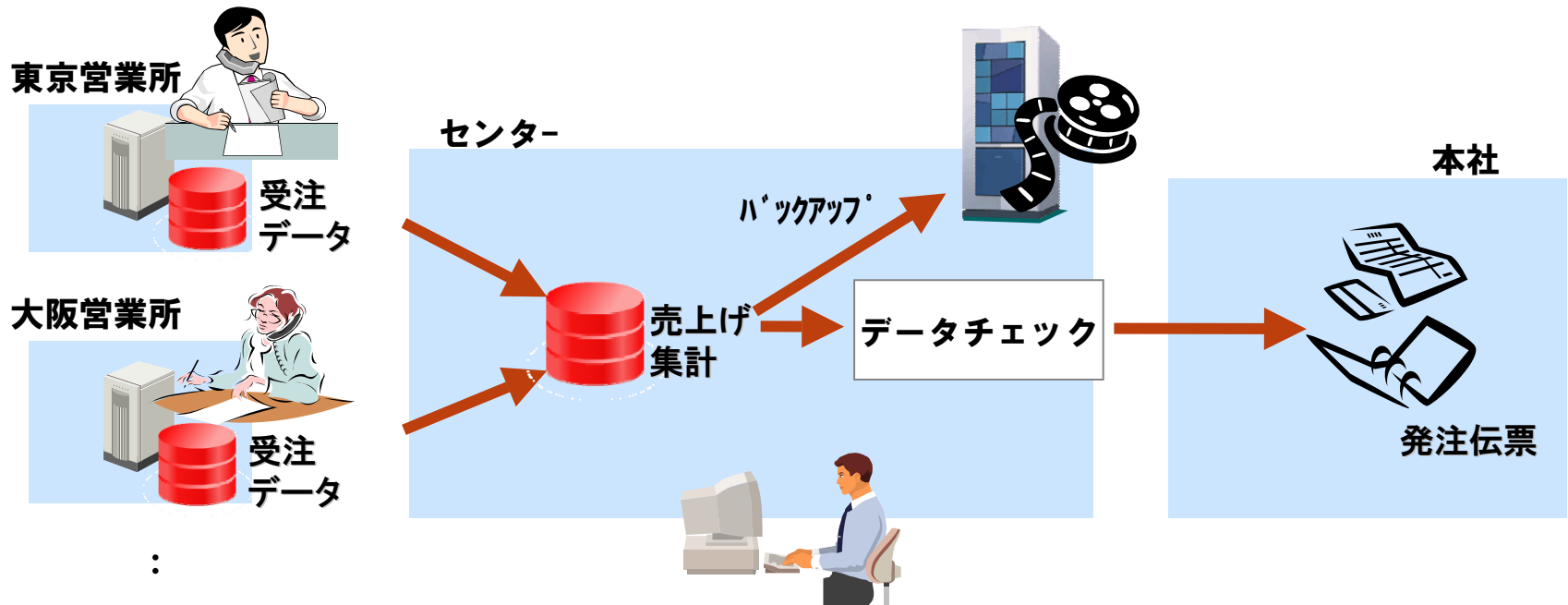
HITACHI
Inspire the Next

付録

①デモンストレーション概要

モデルケース
～XX社 発注伝票作成システム～

各営業所で受け付けた受注データを、営業終了後センタに集約。
翌朝までに発注伝票を作成し、本社に転送するシステム。
JP1/AJS2を利用し自動化している。



XX社から委託を受けた、YYシステム社がシステムの運用・維持管理をしている。

付録

②JP1 /IM-SSによるユーザー・ロールの管理

■XX社

A氏

(システム取りまとめ) →顧客

営業

(システム利用者) →ユーザー

:

■YYシステム社

・サービスサポート部
(XX社窓口対応)

C課長

D主任

E担当

:

XX社窓口担当チーム

・システム部
(システム運用・管理チーム)

F課長

G主任

H担当

:

XX社システム運用チーム

・設計部
(システム開発チーム)

I課長

J主任

:

K課長

L主任

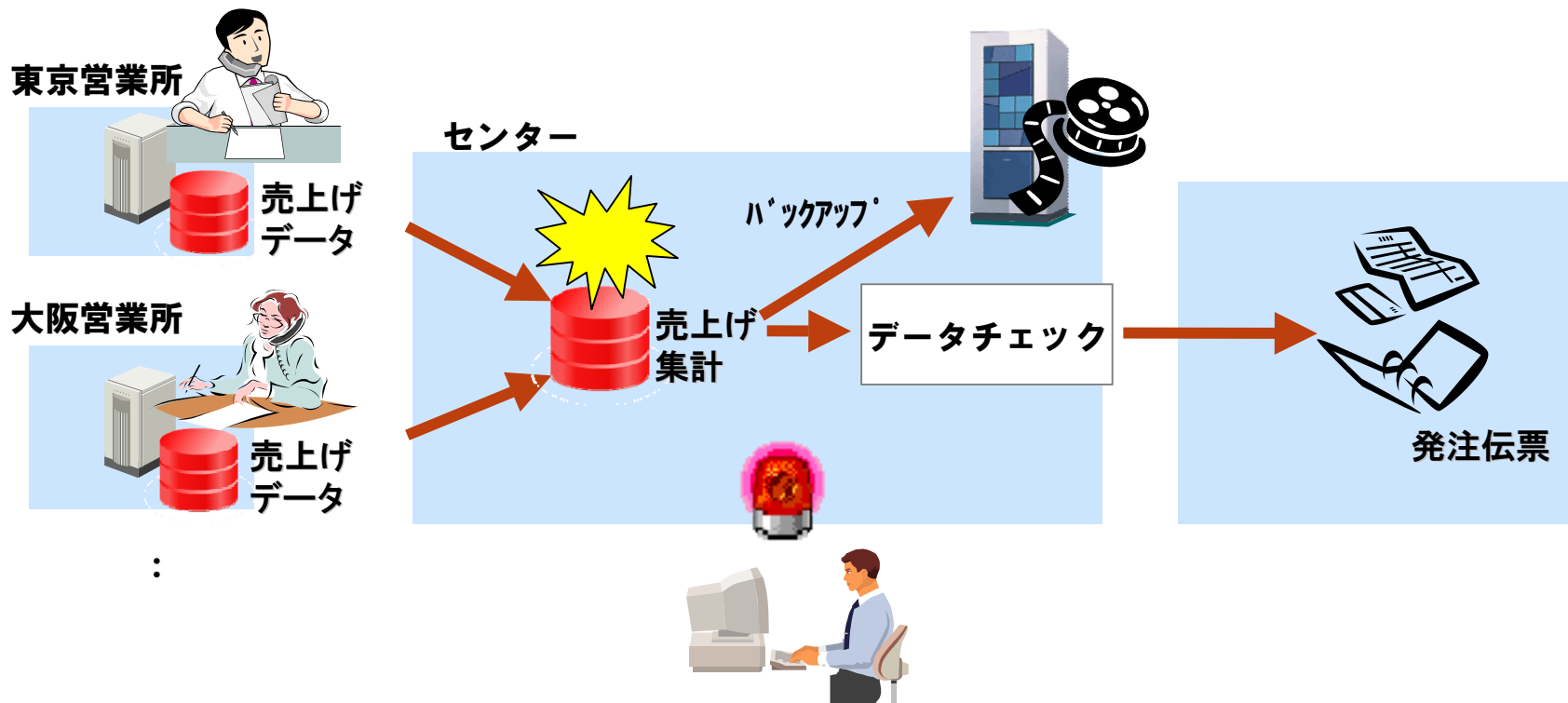
:

本変更作業のみ
スポット対応

付録

③インシデントの登録、問題調査とエスカレーション (インシデント管理)

売り上げ集計処理において、JP1/AJS2がジョブの遅延を検知したとの警告が、YYシステム社サポートサービス部のE担当に通知された。(処理は継続して動作中)



■XX社

営業

A氏

契約情報の確認

E担当

D主任

C課長

報告

報告

状況報告

未知のエラーである報告

過去問題の検索

報告

審査

状況報告

承認

エスカレーション

■YYシステム社

■XX社

営業

A氏

契約情報の確認

E担当

D主任

C課長

報告

報告

状況報告

未知のエラーである報告

過去問題の検索

報告

審査

状況報告

承認

エスカレーション

■YYシステム社

付録

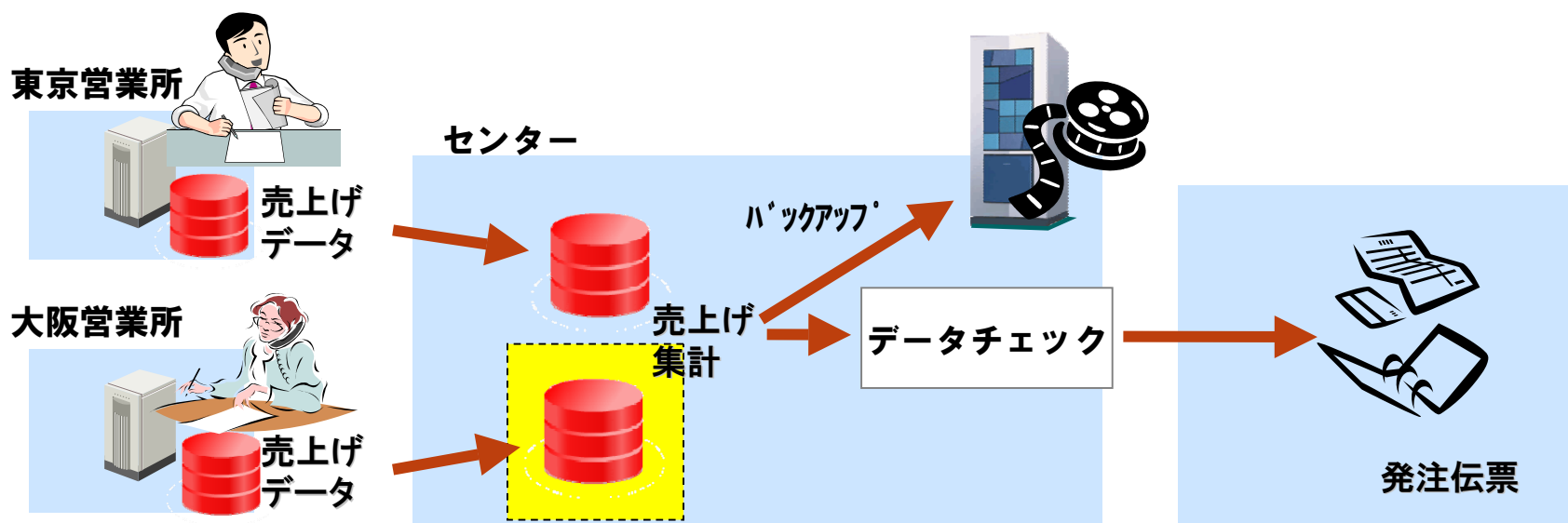
④問題の調査と解決策の提示 (問題管理)

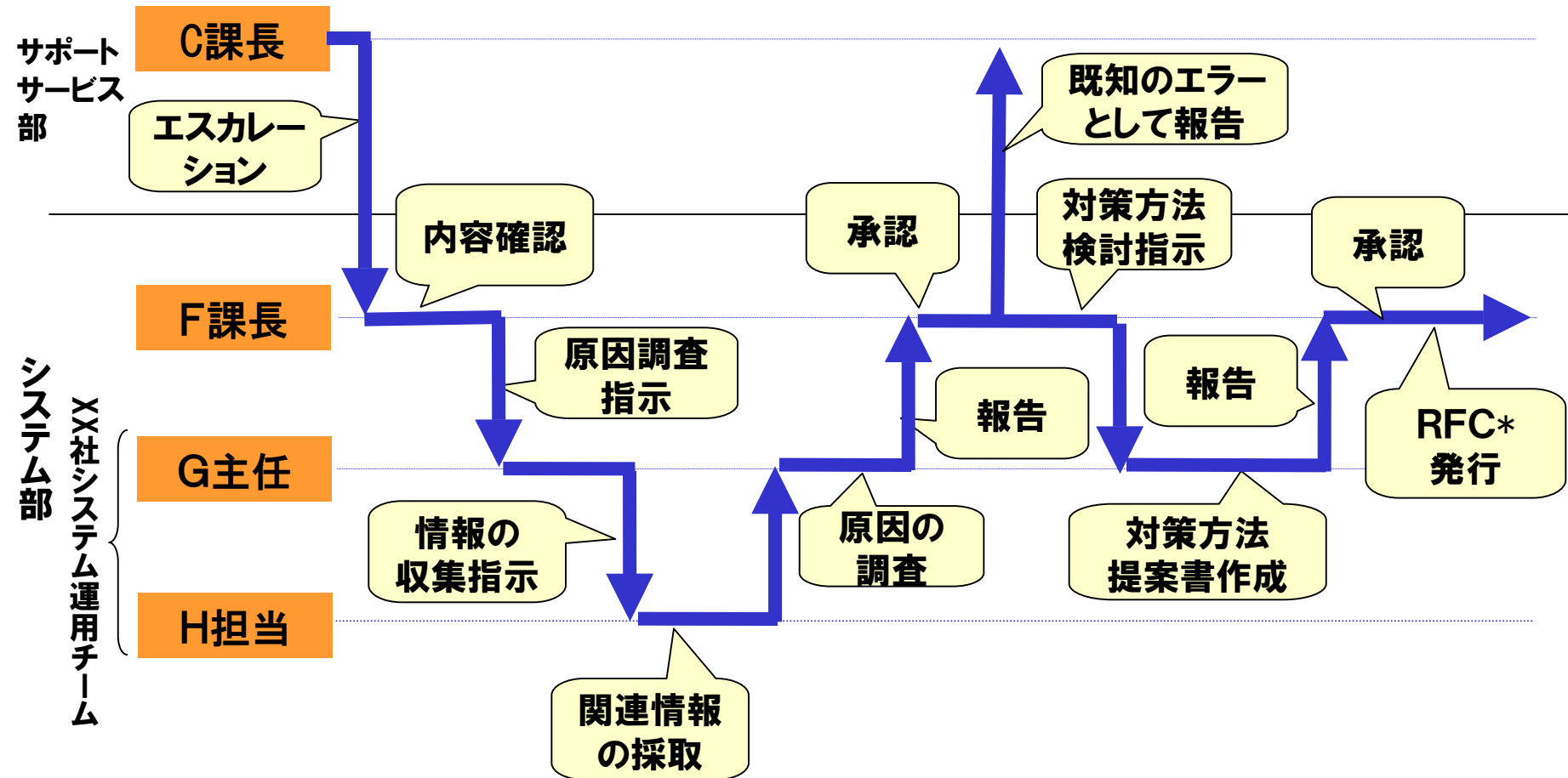
依頼された問題について、JP1/PFMなどの稼働データなどを
基に原因の究明を行い、既知のエラーとして登録する。

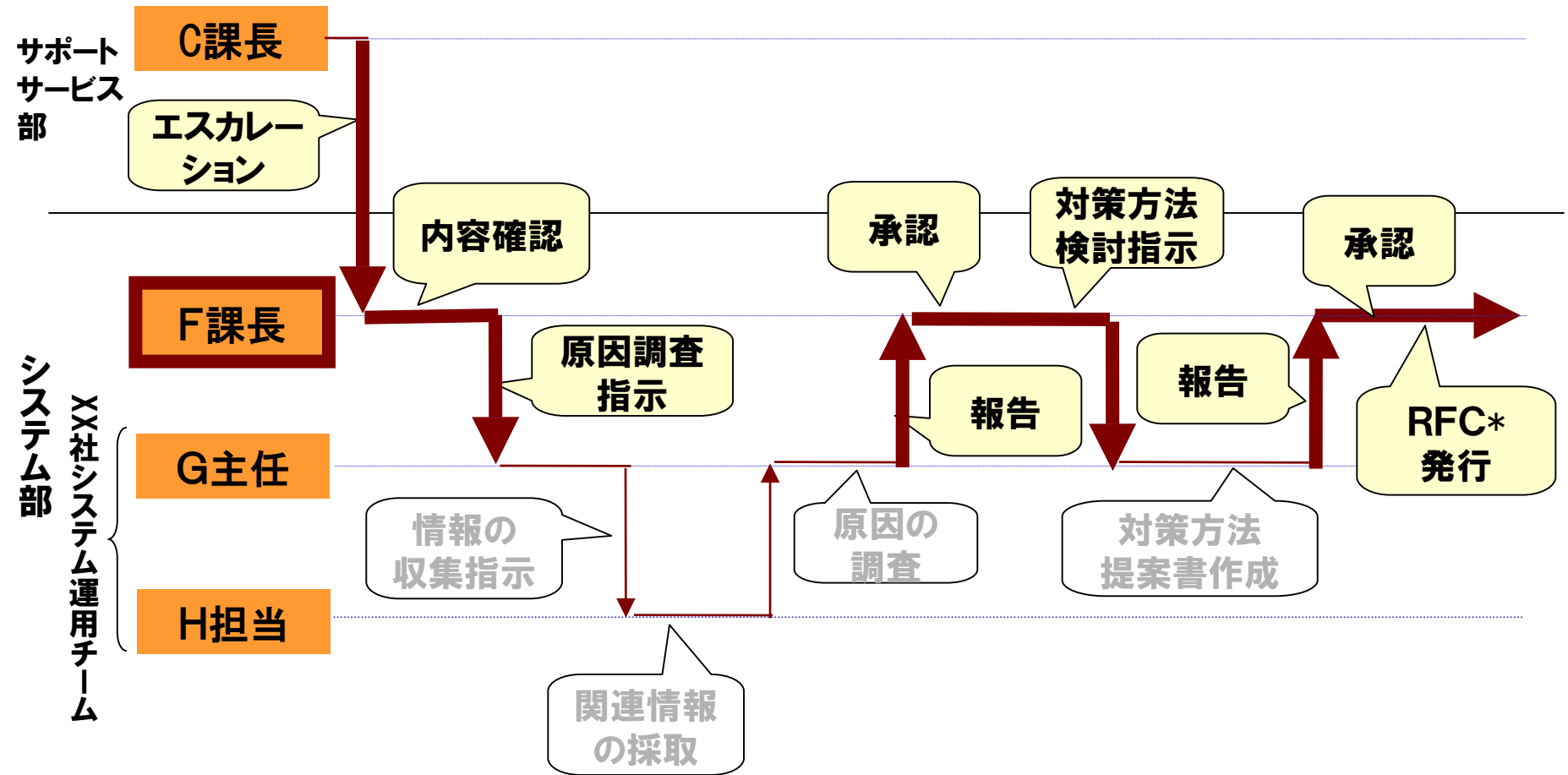
→本デモでは、売り上げ集計処理能力の限界に近づいていることが原因。

究明した原因から、解決策を提示する。

→売り上げ計算処理のシステムを二重化し、営業所からのデータを分散し
て処理する方式を提案。







付録

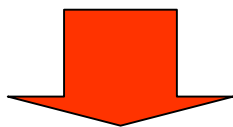
⑤変更内容の評価と変更の認可 (変更管理)

提出された変更要求(RFC)を受けて、変更マネージャーを任命する(本デモでは、設計部では設計部のI課長)。
変更マネージャーは、インパクト、コスト、リスクなどを評価し、CAB(変更諮問委員会)を召集する。
そこで承認が得られれば、具体的な変更作業を検討する。

変更マネージャ

I課長

インパクト、コスト、利点、リスクを評価し、これらより、変更の緊急度を策定。



CAB

変更の可否、優先度などを検討し、承認(必要に応じ拒否)する。



CAB出席者

A氏

顧客

営業(代表)

ユーザー

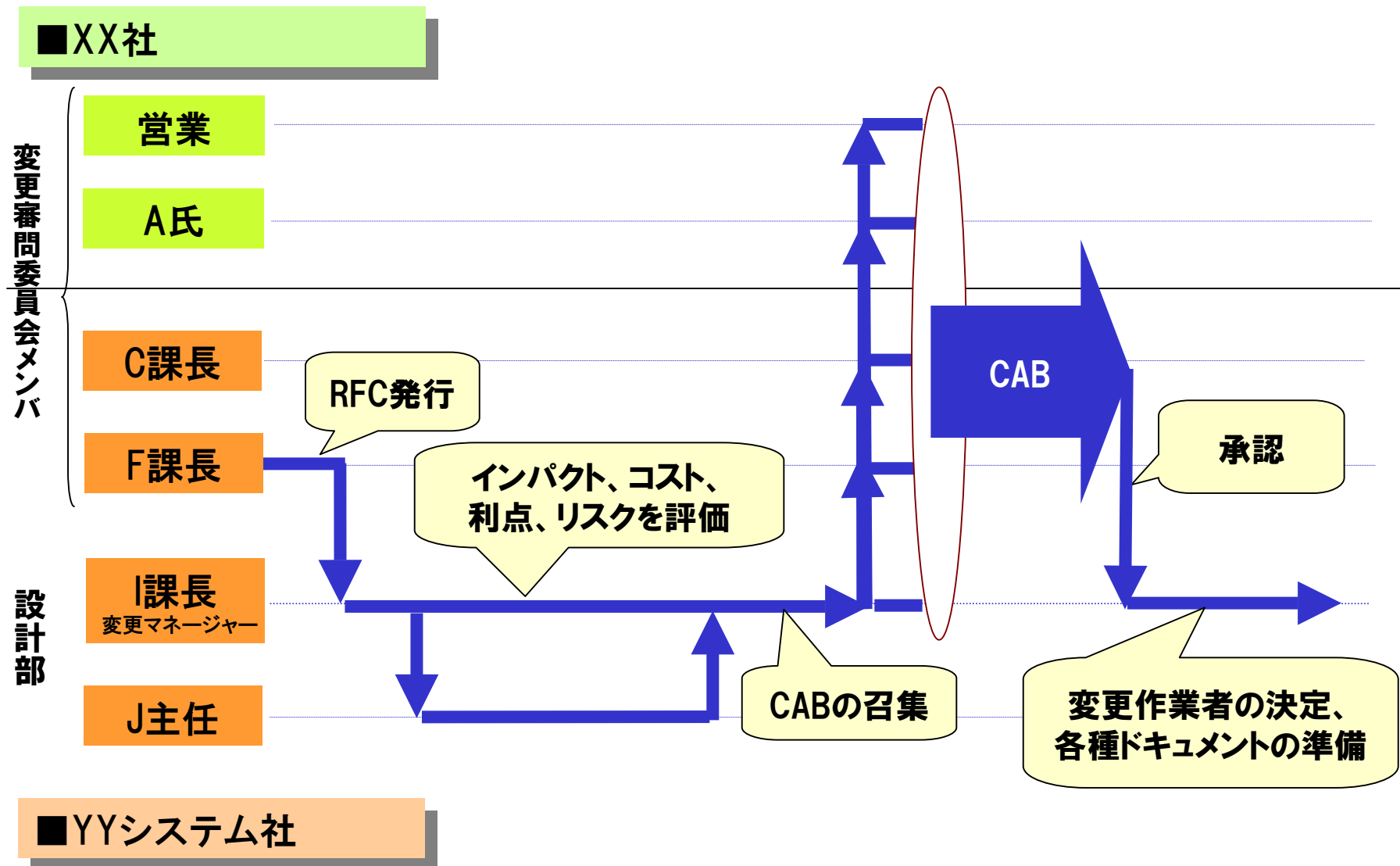
C課長

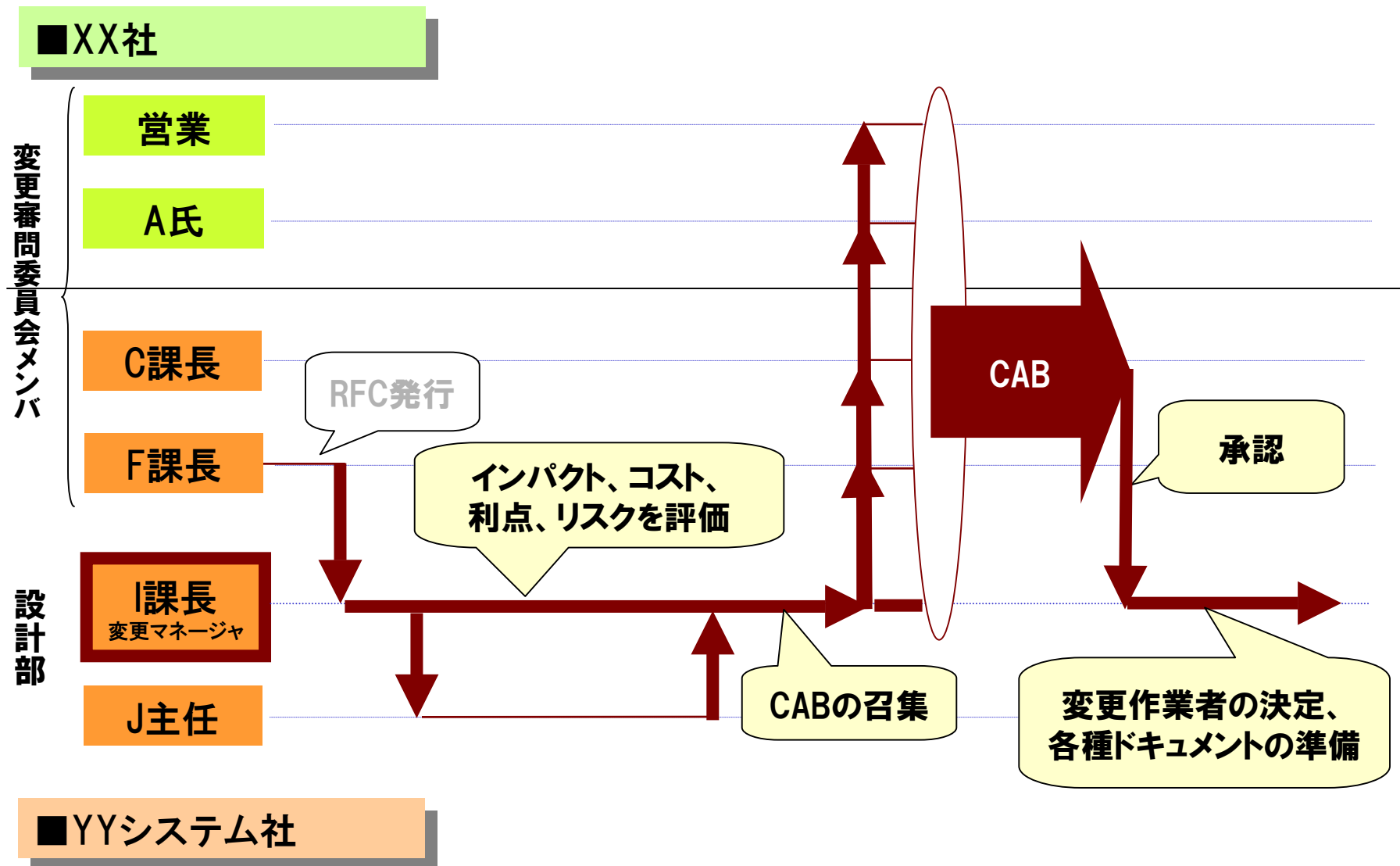
サービス
サポート部

F課長

システム部

I課長





他社商品名、商標等の引用に関する表示

- AIXは、米国における米国International Business Machines Corp.の登録商標です。
- BEA WebLogic Serverは、BEA Systems, Inc.の登録商標です。
- DB2 Universal Databaseは、米国における米国International Business Machines Corp.の商標です。
- HP-UXは、米国Hewlett-Packard Companyのオペレーティングシステムの名称です。
- ITIL(IT Infrastructure Library)は、英国及び欧州連合各国における英国政府OGC (Office of Government Commerce)の商標又は登録商標です。
- Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Lotus、Lotus Domino、Lotus NotesはIBM Corporationの登録商標です。
- Microsoftは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標です。
- Microsoft Exchange Serverは、米国Microsoft Corp.の商品名称です。
- Microsoft® Internet Information Server、Microsoft® Excelは、米国Microsoft Corp.の商品名称です。
- Microsoft SQL Serverは、米国Microsoft Corp.の商品名称です。
- ORACLE、Oracle8i、Oracle9i、Oracle10gは、米国Oracle Corporationの登録商標または商標です。
- Solarisは、米国Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- SAP、R/3は、SAP AGのドイツおよびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIXは、X/Open Company Limitedが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- Windowsは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

◇本製品を輸出される場合には、外国為替 及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
なお、ご不明な場合は、弊社担当営業に お問い合わせください。

●画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。

END

今からでも間に合う！JP1 V8.1 で実現する
内部統制の整備と強化
株式会社 日立製作所
ソフトウェア事業部 JP1販売推進センタ
鎌田 義弘

uVALUE *with Harmonious* Computing*

HITACHI
Inspire the Next